

2021 年度  
北陸 ESD 推進コンソーシアム  
成果報告書

2022 年 2 月  
北陸 ESD 推進コンソーシアム

## 目次

はじめに	3
【成果報告1】主要会議等報告	
・北陸 ESD 推進コンソーシアム成果報告会の開催概要	4
・北陸ユネスコスクール交流会の開催概要	7
・北陸 ESD 推進連絡協議会の開催概要	9
・北陸3県における県別報告会、交流会	
・(石川県) SDGs・ESD 児童生徒学習活動交流会	
・(富山県) SDGs-ESD 富山シンポジウム(意見交換会)	
・(福井県) 福井ユネスコスクール等・SDGs 交流会	
【成果報告2】実践報告、事業報告	
・ユネスコスクール等の実践報告概要	13
・eラーニング教材制作協力者交流会	
・補助金や助成金を受けた事業の報告概要	15
・金沢大学：2021年度ユネスコ活動費補助金事業	15
「北陸におけるSDGs達成に向けたeラーニング教材開発を中心とする教員等の人材育成」	
・石川県ユネスコ協会：2021年度地球環境基金助成金事業	29
「北陸におけるSDGs達成に向けたESDプログラムの開発」	
・日本ユネスコパートナーシップ事業	30
資料	
・eラーニング教材(実践編)のスライド	32

- ・「身近な駅を通して住み続けられるまちづくりに向けて働きかける子ども-その1、その2-」  
(富山県) 富山市立堀川小学校
- ・「割山森林公園『天湖森』を地域の宝に」  
(富山県) 富山市立神通碧小学校
- ・「身近な SDGs と私たちがかわり ～海の豊かさと神通川の上流の関係～」  
(富山県) 富山市立楡原中学校
- ・「金沢ふるさと学習」を価値づけるための実践報告  
(石川県) 金沢市立新神田小学校
- ・「ESD の視点を取り入れた英語教育 ～現代社会において英語を学ぶ意義を探る～」(石川県) 金沢市立高岡中学校
- ・「珠洲市の SDGs 学習」  
(石川県) 能登 SDGs ラボ
- ・「地域の食・文化からつながる海外交流」  
(石川県) 国連大学 OUIK
- ・「金沢大学附属病院内学級におけるオンライン天体観望支援」 (石川県) 金沢市キゴ山ふれあい研修センター  
金沢市立小立野小学校金沢大学附属病院内学級、金沢星の会、北陸 ESD 推進コンソーシアム
- ・「鳴鹿 SDGs～今ぼくたちわたしたちにできること」  
(福井県) 坂井市立鳴鹿小学校
- ・「勝山市の課題を SDGs で考える 3 年社会科 地方財政の仕組みと課題」 前任校勝山市立勝山南部中学校の実践  
(福井県) 坂井市立坂井中学校
- ・「味噌蔵 SDGs 講座」 (石川県) 金沢市味噌蔵公民館、大学生グループ、(株) ガクトラボ  
北陸 ESD 推進コンソーシアム

・ e ラーニング教材 (実践編) のアンケート調査 . . . . . 50

アンケート用紙

アンケート結果 (概要)

## はじめに

2021年度は、前年に続き、コロナ禍続く中でのスタートとなった。

子どもたちの過ごす学校や地域においても、全くそれ以前と同じ活動を行うことは難しく、例えばグループでの学習や地域での学習、合宿や修学旅行など子どもたちの貴重な経験機会となる学校行事も取りやめや制約の中での実施が続いている。

しかしながら、このような中でも地域を通しての学び、持続可能な社会の担い手を育む取り組みは、この北陸の地において着実に歩みを重ねている。

私たち北陸 ESD コンソーシアムでは、昨年度に引き続き今年度も文部科学省ユネスコ活動費補助金を受け、北陸三県で取り組まれた、魅力と個性にあふれる実践に基づく e ラーニング教材 11 本を取りまとめ、公開させていただくことができた。子どもたちが地域の方々とともに活動する中で、その良さを課題を改めて捉え直し（気づき、わかりなおし）、次第により深く「自分事として」捉え、行動が変容していく具体の姿や、その子どもたちや学校を支える地域の方々の粘り強い取り組み、直接教えるのではなくともに学び、子どもたちの内からの学びや気づきを側面から支える教師・学校の有り様等々について、いつでもどこからでも視聴し、学ぶことができる Web 動画教材となっている。是非一度ご覧になり、感想やご要望、取り上げるべき実践についての情報などをお寄せいただきたい。

また、石川県ユネスコ協会では令和 3 年度地球環境基金助成事業を受け「北陸における SDGs 達成に向けた ESD プログラムの開発」に取り組んだ。本事業では、北陸 ESD コンソーシアムの ESD 推進コーディネーター等が実践校・実践者や活動団体を支援し、プログラムの開発・実践、研修などを実施した。またその成果をとりまとめ、北陸版 SDGs ガイド（改訂版）として発刊する予定である。

北陸地域では、本報告書で取り上げた取り組み以外にも様々な学校や地域、団体が SDG/ESD の活動に取り組み、それぞれに魅力的な成果をあげている。私たち北陸 ESD コンソーシアムでは、これからの社会においてますます活用が進むと考えられる ICT…情報通信技術を活かした交流拠点、支援・情報センターとしてこれらをつなぐ役割を担っていきたいと考えています。

最後になりましたが、コロナ下での GIGA スクール対応など慌ただしい中で実践報告・教材化に取り組んで下さった各学校の皆様、ともに実践を進めて下さった地域の諸団体の皆様、私たちの活動を支えアドバイスくださった文部科学省、環境省をはじめ諸機関の皆様、事務作業など実務を担当して下さった皆様に厚く御礼申し上げます。

北陸 ESD 推進コンソーシアム 事務局長 加藤隆弘

(金沢大学大学院教職実践研究科 准教授)

## 【成果報告 1】 主要会議等報告

### ○北陸 ESD 推進コンソーシアム成果報告会の開催概要

主催：北陸 ESD 推進コンソーシアム

後援：ESD 活動支援センター、中部地方 ESD 活動支援センター、国連大学 OUIK、富山市教育委員会、  
南砺市教育委員会、金沢市教育委員会、珠洲市教育委員会、勝山市教育委員会、坂井市教育委員会、  
富山ユネスコ協会、石川県ユネスコ協会、ふくいユネスコ協会

日時：令和 4 年 2 月 6 日（日）14：00～16：30

会場：オンライン開催

出席者：北陸 ESD 推進コンソーシアム会員及び関係者及び一般希望者

文部科学省国際統括官補佐、ESD-J、外部評価者、e ラーニング教材制作協力校

北陸 3 県 SDGs 未来都市 10 都市の教育委員会 など 43 名

プログラム

開会挨拶 金沢大学 加藤隆弘

来賓挨拶 文部科学省国際統括官補佐 堀尾多香

(挨拶概要)

北陸における ESD 達成に向けた ESD の教育実践について、学校だけでなく公民館や野外活動、教育施設の取組そしてステークホルダー間の連携協力についてご報告頂けると伺っております。新型コロナウイルスに加え自然災害や技術革新など予測不可能な事が起こる時代になっており、そういった予測不可能な事態が起きても未来を切り開いていく力が求められております。これは地球上の誰もが避けて通ることのできない、人類一人一人が抱えている課題であり、そうした地球規模の課題でもやはり地域でのそれぞれの取組がないと課題解決に結びついていけないのであります。そして課題を自分事としてとらえ、その解決に向けて自分で考え行動する力を身に付けるとともに、新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育が、持続可能な開発のための教育 ESD としてみなさんが取り組んできておられるものであり、現在は SDGs 全ての目標達成に寄与するものとして国際的な枠組みで ESD for 2030 として、国際的にも推進しているものになっております。持続可能な社会の構築に向けて、課題を自分事としてとらえ自分ができることを見つけて取り組む力を身に付けていくことは、今後予測不可能なことが起こった場合でも、様々な工夫や地域の勉強を通して乗り越えられる力を身につけていくことにつながっていると思います。本日は日頃から地域で取り組んでおられる成果の発表を伺うのを楽しみにしており、私自身も勉強させて頂きたいと思っております。本日の会議が皆様にとって実りのある会議となり、今後の活動の発展につながることを願っております。

<成果報告1>

1. ユネスコスクール活動報告（短縮したeラーニング教材動画あるいは直接報告）

- ・「身近な駅を通して住み続けられるまちづくりに向けて働きかける子ども-その1、その2-」  
(富山県) 富山市立堀川小学校
- ・「割山森林公園『天湖森』を地域の宝に」  
(富山県) 富山市立神通碧小学校
- ・「身近なSDGsと私たちのかかわり ～海の豊かさと神通川の上流の関係～」  
(富山県) 富山市立楡原中学校
- ・「金沢ふるさと学習」を価値づけるための実践報告  
(石川県) 金沢市立新神田小学校
- ・「ESDの視点を取り入れた英語教育 ～現代社会において英語を学ぶ意義を探る～」  
(石川県) 金沢市立高岡中学校
- ・「珠洲市のSDGs学習」  
(石川県) 能登SDGsラボ
- ・「地域の食・文化からつながる海外交流」  
(石川県) 国連大学 OUIK
- ・「金沢大学附属病院内学級におけるオンライン天体観望支援」  
(石川県) 金沢市キゴ山ふれあい研修センター  
金沢市立小立野小学校金沢大学附属病院内学級、金沢星の会、北陸ESD推進コンソーシアム
- ・「鳴鹿SDGs～今ぼくたちわたしたちにできること」  
(福井県) 坂井市立鳴鹿小学校
- ・「勝山市の課題をSDGsで考える 3年社会科地方財政の仕組みと課題」 前任校勝山市立勝山南部中学校の実践  
(福井県) 坂井市立坂井中学校
- ・「味噌蔵SDGs講座」  
(石川県) 金沢市味噌蔵町公民館、大学生チーム、(株)ガクトラボ  
北陸ESD推進コンソーシアム

(金沢大学 加藤 隆弘)

このコロナ禍で業務量が増え、且つ教師の働き方改革の流れもあり、新たな取り組みや研修を起こすことが難しい状況にあっても、北陸地域では状況に対応しつつ、着実に取り組みが進んでいることを実感した。今回実践報告いただいた学校、先生方は今までにある取り組みを改めて見つめ直してよりよくしたいと考え、地域の方々や我々のような外部機関とも連携し、見通しを立てて取り組まれていた。より多くの子どもたちが次第次第に自分事として捉え、自ら進んで学び、行動したくなる…そんな姿を目指して、地域の方、学校の先生方もともに学び取り組まれている様子を明確に示していただいた。地域のホンモノの願い、個性ある専門家との出会い等を通して、知っていたつもりのことを改めて知り直し、魅力に気付きなおいし、世界が広がり、実社会に関わるおもしろさに出会っていく…ESD/SDGsの学びの醍醐味が改めて実感できた。各学校や地域の諸機関、公民館などがそれぞれ繋がり、その魅力を十全に引き出しているのが北陸の取り組みの特色なのだと感じた。

(富山大学 成瀬 喜則) コロナ禍の中、学習をどう進めたらいいのか、どうしたら子ども一人一人の問題として認識できるか、今日の発表を聞いていると工夫されていると感じた。取り組みの目標とか課題解決の方法も明確化されてきており、この数年間でアップグレードされている。

3つの観点から発表を聞いた。1つ目は子供一人一人の問題として認識させる、ごみを分析する、ゲストティーチャーを呼び、学習の成果としてまとめるだけではなく、提案していくところまで進めている点である。神通碧小学校、楡原中学校、鳴鹿小学校で見られた。2つ目は新たな教育方法の観点、多くのESDは総合的な学習の時間で行われているが、英語の授業や社会科の授業の中で積極的にSDGsを取り入れている点である。パネルディスカッションという新たな工夫もなされており、今後期待できる。最後は学校、教員をどうサポートしていくかという点である。教員研修として先生方に必要感を育成させるという新神田小学校の取組、教材を提供するという国連大学 OUIK や能登 SDGs ラボの取組、地域との連携を進める大学生グループの取組があった。学校、教員をサポートすることも今後必要だと感じた。いろいろな考え方を使って子どもの学びを育成できればいいと感じた。

(福井大学 大山 利夫) すばらしい実践ばかりで、長時間であったが全ての報告を集中して拝聴することができた。学校以外では、能登 SDGs ラボの教員を支援する取組は進んでいると思った。福井でもこのような施設・組織があれば、各学校でのSDGsの取組がさらに広がると思う。ビデオの中の先生のインタビューから、珠洲市の子供たちが教科の中での学びを自然とSDGsとつなげている、そういう思考になっている、SDGsが子供に根付いていると印象をうけた。金沢の学生さんの「味噌蔵SDGs」は、学校だけでなく一般の方、いろんな年齢層の方にSDGsを広げるというすばらしい活動だと思う、いろいろな人とつながっていくことがSDGsの実現のために大切だということを改めて認識した。キゴ山ふれあい研修センターの「オンライン天体観望」の報告も興味深く聴かせていただいた。博物館など天体観測設備がある施設とコラボすれば、家庭に居ながら天体について学ぶ機会が得られるようになると思う。楡原中学校をはじめとする学校での実践はどれも良く工夫されており、子どもたちが問題意識を共有しながら解決策を考え、周りの人たちも巻き込みながら実行に移していくようすがよく見えたと思う。やはり多くの人と繋がっていくことが子どもたちの学びのためにも大切だと思った。

(文部科学省 堀尾 多香) 地域との取り組み、連携がうまくいっていることが多い。学校の先生方が地域の課題を、国際的な課題をいかに自分事にするかといった時に地域の身近な課題とを結びつけることでより子供たちが地域の一員として自覚を持つ、それに対して周りがサポートする仕組みができてきている。非常に重要で地域の課題を取り組むときに学校だけでは難しいし、今回専門家のゲストティーチャーを招いたり、研修を行うということは学校だけでは難しく、現場を見るとか、その分野の専門家の人、実際のデータを見る、上手く組み合わさっていて、先生方が生徒の願い関心を上手く引き出しながら地域の課題を解決する方向に授業をたてているなど感じた。どんどん発展させていって、全国の学校で取り組んでいけないといけない。ESDをどう取り組んで行ったらいいかわからないといったところに、コンソーシアムの先生方にはいい取り組みをしている事例を活動に困っている学校に紹介頂いて、何も新しいことをする必要はなくて、持っている資源やネットワークを使うことで十分取り組んでいけるというメッセージを発信して頂きたい。我々文科省としてもきちんと発信できるよう、何も新しい取り組みをしなきゃいけないというわけではなく、身近な課題、地域の課題を取り組み、今ある資源、ネットワーク、リソースを使うことで対応できるといった事例を紹介することでお互い学び合っていく仕組みを作っていく努力をしていきたいと思う。

講 評 加藤 隆弘（金沢大学大学院教職実践研究科）

講 評 成瀬 喜則（富山大学教職実践開発研究科）

講 評 大山 利夫（福井大学教育学部）

講 評 堀尾 多香（文部科学省国際統括官補佐）

#### <成果報告2>

2. 2021 年度地球環境基金助成金事業の報告 「北陸における SDGs 達成に向けた ESD プログラム開発」

3. 2021 年度ユネスコ活動費補助金事業の報告 北陸における SDGs 達成に向けた教員等の人材育成

- ・北陸における SDGs 達成に向けた e ラーニング教材の開発
- ・SDGs の達成という観点に立った北陸の教員養成
- ・本事業の外部評価

各外部評価委員から外部評価の概要をコメント

中澤静男（奈良教育大学） 鈴木克徳（ESD-J）

永井三岐子（国連大学 OUIK）\* 当日欠席のため別途事業全体の評価をいただいた。

4. 質疑応答、意見交換

閉会挨拶 今井 和愛（石川県ユネスコ協会）

#### ○北陸ユネスコスクール交流会の開催概要

日時：12月4日（土）14:00～16:30

場所：オンライン（金沢大学 Zoom システム使用）

主催：北陸 ESD コンソーシアム・石川県ユネスコ協会

後援：ESD 活動支援センター、中部地方 ESD 活動支援センター、国連大学 OUIK、金沢市教育委員会、

富山ユネスコ協会、ふくいユネスコ協会

出席者：30 名

目的：SDGs 達成に向う ESD を進める授業実践や教育活動の交流

ーコロナ禍における SDGs 達成に向けた ESD の歩み



プログラム

開会

開会挨拶 北陸 ESD コンソーシアム事務局長 加藤 隆弘

中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史

実践事例発表

(1) 富山市立楡原中学校 教諭 鈴木 友之

「身近な SDGs と私たちのかかわり ～海の豊かさと神通川の上流の関係～」

(2) 珠洲市能登 SDGs ラボ サブコーディネーター 高 真由美

「能登 SDGs ラボ 珠洲市 SDGs 学習の取組について」

(3) 坂井市立鳴鹿小学校 教諭 佐藤 秀幸

「鳴鹿 SDGs ～今、ぼくたち、わたしたちにできること～」

(4) 【ゲスト】長野県山ノ内町教育委員会 学校教育係 小林 妙子

「山ノ内町 ESD の取組 ～ESD 通信作成を通して～」

グループワーク（ブレイクアウトルーム4つに分かれて実践の共有）

全体交流・まとめ

講評 金沢大学 准教授 加藤 隆弘

富山大学 教授 成瀬 喜則

金沢星稜大学 特任教授 新 広昭

国連大学 OUIK 事務局長 永井 三岐子

講演 「SDGs・ESD 及びユネスコスクールの最新の動向」 鈴木 克徳 (ESD-J 理事)

参加者の感想より

信州 ESD コンソーシアムとの連携が復活し、ゲスト発表を長野県山之内町教委から報告を聞くことができ良かった。教委の発信する「ESD 通信」という取り組みは、町内の学校間の連携や共有を図り、各学校の取り組みを尊重している点が面白い。プラットフォームとしての教委のポジション取りが参考になった。山の学校と海の学校が投棄物や流下物、漂着物などを、同じ国際標準の調査手法で調査していることは、データとしても非常に意味がある。学校の外に能登 SDGs ラボのような支援組織があることは、SDGs・ESD に関する授業実践するには支えられると思う。学習の先に児

童生徒も一人の実践者、行動する主体として成長するよう考えることは、とても大切な視点だと思う。

### ○北陸 ESD 推進連絡協議会の開催概要

北陸の SDGs・ESD に関する活動を共有し、協働活動を促進し、関係者の連携を強化し、地域ユネスコ活動のより広範な広報・普及を図るために、本年も昨年度に引き続き 6 月に北陸 3 県の SDGs・ESD 推進する主要な関係者からなる協議会を設置。大学・行政・NPO・民間ユネスコ協会等の団体・個人の 33 名を委嘱した。

#### 令和 3 年度第 1 回北陸 ESD 推進連絡協議会

日時：令和 3 年 7 月 16 日（金）14：00～16：00

場所：オンライン（金沢大学 Zoom システム使用）

参加者：23 名

内容

1. 簡単な自己紹介（名前・所属・一言 1 人 30 秒程度 23 人で 15 分）
2. 令和 3 年度石川県ユネスコ協会の取り組みについて  
【地球環境基金助成金事業】「北陸における SDGs 達成に向けた ESD プログラム開発」について
3. 令和 3 年度北陸 ESD 推進コンソーシアムの事業について  
【ユネスコ活動費補助金事業】「SDGs 達成の担い手育成(ESD)推進事業」について
4. ユネスコスクール、ESD にかかわる現状について

#### 令和 3 年度第 2 回北陸 ESD 推進連絡協議会

日時：令和 3 年 10 月 18 日（月）13：30～15：30

場所：オンライン（金沢大学 Zoom システム使用）

参加者：21 名

1. 各委員・団体の活動紹介（自己紹介を兼ねて 1 人 2～3 分程度 約 20 名）
2. 令和 3 年度石川県ユネスコ協会の取り組みについて  
【地球環境基金助成金】「北陸における SDGs 達成に向けた ESD プログラム開発」事業をめぐって
3. 令和 3 年度北陸 ESD 推進コンソーシアムの事業について  
【文科省ユネスコ活動費補助金】「SDGs 達成の担い手育成（ESD）推進事業」をめぐって
4. ユネスコスクール、ESD にかかわる現状について

## 令和3年度第3回北陸ESD推進連絡協議会

日時：令和4年1月24日（月）13：30～15：30

場所：オンライン

参加者：13名

### 1. 令和3年度石川県ユネスコ協会の取り組みについて

【地球環境基金助成金】「北陸におけるSDGs達成に向けたESDプログラム開発」事業について

- ・『北陸版SDGs・ESD実践ガイド』の改訂について
- ・SDGs・ESD普及セミナーの開催について

### 2. 令和3年度北陸ESD推進コンソーシアムの事業について

【文科省ユネスコ活動費補助金】「SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業」について

- ・eラーニング教材（実践編）開発事業について

### 3. ユネスコスクール、ESDにかかわる現状について

### 4. 質疑応答

### 5. グループ（ブレイクアウトルーム）に分かれて話し合い（2グループ）

### 6. 全体会（各グループの報告・意見交換）

## ・北陸3県における県別報告会、交流会

- ・石川県SDGs・ESD児童生徒学習活動交流会

【主催】 北陸ESD推進コンソーシアム 石川県ユネスコ協会

【後援】 ESD活動支援センター 中部地方ESD活動支援センター 国連大学 OUIK

金沢市教育委員会 富山ユネスコ協会 ふくいユネスコ協会

【日時】 2022年1月22日（土）13:30～16:00

【場所】 オンライン Zoom 会議

【出席者】 学校関係者、大学関係者、JICA関係者、企業経営者、団体など約30名

【会議の概要】

1.開会挨拶 北陸ESD推進コンソーシアム 事務局長 加藤 隆弘

## 2.実践発表

①「和菓子 PR 大作成」金沢市立兼六小学校3年生 教諭 田中 哲也

②「2021年度の取り組み（1年生）」金沢市立高岡中学校1年生 教諭 藤井 宣子

③「12月11日珠洲市SDGs学習取組報告会における正院小学校5・6年生と緑丘中学校2年生の取り組み報告の紹介」

珠洲市能登SDGsラボ サブコーディネーター 高 真由美

④「SDGsを考えよう！」～カードゲームでSDGsを～ 能美市立小学校

(株)日本海開発 代表取締役社長 南 純代

### ゲスト報告

⑤ 「未来のふるさと 動物（サル）と人間が共存できる自然豊かな山ノ内町になってほしい」

長野県山ノ内町立東小学校6年生 教諭 中山 みどり

## 3.質疑応答（概要）

子どもたちのアンケート調査、インタビュー調査などの調査力がすごい。統計につながる学習。児童の考えた和菓子のアディアを和菓子職人がリアルな和菓子として作ってくれるなど、地域とのつながりを感じる。

NPO 法人と連携して放置竹林について学習し、竹アートとして設置し最後に土に返す視点が良い。学習に協力いただける人を探すため、いろいろな場に参加し大変だが、教師の学びにもつながっている。生徒が自分たちで取り組みを動画としてまとめて発表している点も面白い。

教育では学校の先生しかできないことがたくさんあるので、先生方のワークショップを教委と連携して行っている。子どもたちは、地域の良さを伝えていく一員であり、SDGs と農業遺産がつながっていることを実感できている。

能登SDGs ラボのような学校のSDGs・ESDを支援する組織や仕組みが大切。

トレードオフが生じることを、企業や大学生とともにカードゲームで生き生きと学んでいる。学習で良いと思って提案されたことの弊害について考えること、大人や先生のを気にせず自分の考えを言える学習環境が重要。

3校がオンラインで発表し合い、感想や意見を交流したのは素晴らしい。「なぜサルと共存しなくてはならないのか」など鋭い質問もあり、子供たちにとってもよい経験となった。

4.講評・国連大学 OUIK 永井 三岐子 ・金沢大学 加藤 隆弘 ・金沢星稜大学 新 広昭

・金沢大学 佐川 哲也

## 5. 連絡とお知らせ

## 閉会挨拶

### ・SDGs - ESD 富山シンポジウム

日時：令和4年2月15日（火）13：30～14：30

場所：オンライン開催

参加者：約300名

#### ①開会の挨拶

#### ②激励の言葉

#### ③グループでの意見交換

グループ1 11 富山市立古沢小学校

12 富山市立寒江小学校5年生★

13 富山市立堀川小学校5年3組★

14 富山市立呉羽小学校6年生1クラス★

15 氷見市立朝日丘小学校4年生

16 富山ユネスコ協会 水上副会長（オブザーバー）

グループ2 21 富山市立光陽小学校 ★

22 富山市立呉羽小学校6年生1クラス★

23 富山市立神通碧小学校6年

24 南砺市立福野小学校6年生★

25 持続可能な開発のための教育推進会議 鈴木理事（オブザーバー）

グループ3 31 高岡市立成美小学校

32 富山市立呉羽小学校1クラス★

33 富山市立東部中学校生徒会★

34 富山市立楡原中学校1年生★

35 富山国際大学 子ども育成学部 松山教授（オブザーバー）

★印は実践事例提供校

#### ④各グループからの発表

#### ⑤質疑応答等

#### ⑥閉会の言葉

### ・福井ユネスコスクール等・SDGs 交流会

日時：令和4年2月18日（金）15：00～16：30

場所：オンライン（Zoom 会議形式）福井大学教育学部 発信

参加者：約40名

#### 事例発表校

●小浜市立内外海小学校； 「内外海の鯖の魅力を伝えます」

- 勝山市立平泉寺小学校； 「平泉寺の魅力発見・発信！～杉の子ふるさと発信隊」
  - 坂井市立丸岡南中学校； 「自分たちにもできる SDGs ～南中ごと可」
  - 嶺南学園気比高校 ； 「気比の松原におけるマイクロプラスチックの実態調査」
  - 福井県立敦賀高校 ； 「高校生が考える『人道』」
- ファシリテーター：福井大学 地域教育学部 教授 大山利夫

## 【成果報告2】実践報告・事業報告

### ○ユネスコスクール等の実践報告

今年度は、富山県3校、石川県2校、福井県2校の学校と石川県の1団体（能登SDGsラボ）、野外教育施設1施設、公民館1館の実践報告を行った。内容的には、SDGsを意識し地域のSDの課題や、投棄物の調査、公共交通、海外との学習交流、など多様性に富んでいた。また、SDGsを教科（英語科、社会科）と結びつけることで、教科や単元の「本質的な問い」や「セントラル・アイディア」とも言われる中心概念の形成が明確になるというカリキュラム・マネジメントの質の向上を実証できる準備が整ってきた。また、院内学級を支援する野外教育施設の実践や、SDGsに取り組む公民館を学生たちが取材するなど、多様なステークホルダーと連携した実践も登場した。今年度は、国連大学 OUIK、社会教育施設2施設、他3団体との連携による実践の報告があった。今年度も、コロナ禍にあり極めて難しい授業環境でありながら、北陸の各地においてSDGs達成に向けたESDの授業が力強く営まれていたことは、来年度以降のポストコロナに確実につながると感じた。また、今後eラーニング教材化が期待される実践も、以下のように明らかになってきている。

- ・SDGs達成に向うESDの実践において、SDGsのゴールと結びつけた「本質的な問い」や「セントラル・アイディア」などの中心概念が明確化された実践
- ・DXの進展を利活用した学校間の学習交流・学習対話の場の構築を児童生徒自身が目指す実践
- ・学びのプロセスにトレードオフなど多面的に深く学習する場を想定した授業実践
- ・専門性の高い外部リソース（大学、地域、企業、NPO、社会教育施設など）との連携による児童生徒と教師が共に学ぶ実践
- ・SDGs達成に向うESDの授業実践による、児童生徒と教師が地域の生活者として、行動の主体として成長する実践
- ・教科の授業が、SDGs、ESDによって「自分事として考える」可能性が出てくることを実感させられた。

## ○2021年度 北陸 ESD 推進コンソーシアム eラーニング教材制作協力者交流会

1. 主催 北陸 ESD 推進コンソーシアム
2. 目的 昨年度及び今年度の eラーニング教材制作協力者が集い、SDGs 達成に向う ESD の実践を交流するとともに、eラーニング教材化することの意義や可能性等について討論し、成果と課題を共有する。
3. 参加者 (21 名)
  - 2020 年度 eラーニング教材 (実践編) の制作協力者及び関係者
  - 2021 年度 eラーニング教材 (実践編) の制作協力者及び関係者
  - 北陸 ESD 推進コンソーシアム関係者
4. 日時 2021 年 8 月 22 日 (日) 14:00~16:00
5. 会場 オンライン (ZOOM)
6. 内容 (1) 開会挨拶  
(2) 参加者自己紹介
  - 2020 年度制作協力者:eラーニング教材化した感想
  - 2021 年度制作協力者:eラーニング教材化する対象教育実践について(3) eラーニング教材化の意義と可能性について
  - ①eラーニング教材の活用状況等についての報告 (事務局)
  - ②大学関係者による評価 (成果と課題)
  - ③制作者協力者間の意見交換(4) eラーニング教材制作に関する質疑応答、意見交換

### 参加者の声より

制作する動画教材の仕様や描き方などの技術的な話し合いもあったが、その土台となる SDGs の達成に向う ESD の実践についての交流や、そもそも ESD の授業とは、というような根本的な話も多かった。変革変容が重要であることから、子供たちも教師も共に持続可能な社会の担い手として行動する主体であり動き出す力が重要だとの話や、自分と世界とのつながりを理解しリアリティーを感じる授業が必要だとの話など、ざっくばらんに話し合うことができた。最後に、参加者から教材制作だけでなく SDGs や ESD について相談し合える SNS 上の場が欲しいとの声があり、事務局として検討することとなった。

## ○補助金や助成金を受けた事業の報告概要

### ● 金沢大学：令和3年度ユネスコ活動費補助金事業

「北陸における SDGs 達成に向けた e ラーニング教材開発を中心とする教員等の人材育成」

#### 1. SDGs 達成に向けた e ラーニング教材（実践編）の開発

##### (1) 予備調査(訪問・ヒアリング)

調査対象 金沢市教育委員会、金沢市企画調整課、能美市教育委員会、小松市教育委員会、

金沢市立小中学校計 5 校 金沢 SDGs 事務局、能登 SDGs ラボ

富山市教育委員会、富山市環境保全課、南砺市教育委員会、富山市立小中学校 3 校

勝山市教育委員会、坂井市立小中学校 2 校、エコプランふくい

国連大学 OUIK、福井大学

調査時期 5 月～7 月

昨年度と同様に、コロナ禍の拡大と長期化や GIGA スクールへの対応などの中で、改めて学校現場が極めて厳しく困難な状況に置かれていることが理解できた。一方、ユネスコスクールとしての活動状況を見直し充実させようと模索する学校現場があることも認められた。さりとて、校内外の研修などが縮小している状況であり、教員等が個人で視聴し研鑽できる e ラーニング教材の必要性とニーズがあることを確認できた。また、SDGs・ESD の視点からも、教員が自発的で自律的に専門性を高めることの重要性が増していると感じた。改めて、深く対話的な学びへの変革や、学校の外の様々なステークホルダーとの協働などにつながる SDGs 達成に向う ESD の魅力と、その可能性への理解を深めることが重要であると考えた。ポストコロナの各学校におけるカリキュラム・マネジメントにおいて、地域のリソースを学校の教育実践に生かすだけでなく、学校の教育実践が内包する未来へ向かうリソースを地域の社会教育に生かすという双方向性における「開かれた教育課程」であるという視点でのカリキュラム・マネジメントが重要になると感じた。

更に、学校教育の現場でようやく始まった、オンライン授業、リモート授業などが、ポストコロナの学校教育を大きく変える可能性を持つと予感する教員や、このコロナ禍から多くのことを学ぼうとする教員がいることも確認できた。

##### (2) SDGs・ESD 推進検討委員会の設置と検討

コンソーシアムメンバーを中心に設置し、オンラインで e ラーニング教材作成等の検討のため会合を開催した。

① 4 月 19 日（11 名） オンライン（以下の会合は全てオンライン）〔今年度事業概要、コンソーシアム体制等〕

② 5 月 19 日（8 名） 〔年間計画、HP の再構築、SDGs ガイドブック改訂の検討、ESD の推進状況等〕



- ③ 6月14日(7名) [事務局体制、新HP、eラーニング教材公募制作、SDGs・ESDの進展状況等]
- ④ 7月21日(7名) [コンソーシアム体制・各県別ユニット分担等、外部との連携・広報宣伝の強化等]
- ⑤ 8月23日(5名) [福井県との連携、eラーニング教材協力者交流会報告、地球環境基金助成事業の進捗等]
- ⑥ 9月21日(12名) [eラーニング教材制作依頼、石川県の交流会、加盟団体への調査、コアメンバー増員]
- ⑦ 10月25日(12名) [各県のESDの推進状況、ガイドブック改訂、これからのコンソーシアム等]
- ⑧ 12月1日(7名) [交流会の総括、2月の事業報告会、本事業の外部評価等]
- ⑨ 1月11日(9名) [各県のESDの推進状況、石川県SDGs・ESD児童生徒学習活動交流会(1/22)、ユネスコスクールのチャレンジ・申請状況、来年度の補助金申請等]
- ⑩ 2月28日(6名) [事業報告内容・内部評価、事業報告会・外部評価の持ち方、来年度事業企画案等]  
[外部評価結果、来年度事業企画案等]

(3) 今年度制作したSDGs・ESD eラーニング教材(実践編)(資料にプレゼン内容掲載)

SDGsの達成に向けたeラーニング教材(実践編:15分前後)を、北陸3県の学校7校と野外教育施設等の連携団体3団体の協力を得て11本制作した。

教材①SDGs・ESDを推進するホールスクール・アプローチに向けたカリキュラム・マネジメント力の育成

- ・「身近な駅を通して住み続けられるまちづくりに向けて働きかける子ども-その1、その2-」

(富山県) 富山市立堀川小学校 教諭 田平佳祐

- ・「割山森林公園『天湖森』を地域の宝に」

(富山県) 富山市立神通碧小学校 教諭 武部光志

- ・「身近なSDGsと私たちのかかわり ～海の豊かさと神通川の上流の関係～」

(富山県) 富山市立楡原中学校 教諭 鈴木友之

- ・「金沢ふるさと学習」を価値づけるための実践報告

(石川県) 金沢市立新神田小学校 教頭 西野聡子

- ・「ESDの視点を取り入れた英語教育 ～現代社会において英語を学ぶ意義を探る～」

(石川県) 金沢市立高岡中学校 教諭 野坂雄二

- ・「珠洲市のSDGs学習」

(石川県) 能登SDGsラボ サブコーディネーター 高 真由美

- ・「地域の食・文化からつながる海外交流」

(石川県) 国連大学OUIK 研究員 小山明子

- ・「金沢大学附属病院内学級におけるオンライン天体観望支援」

(石川県) 金沢市キゴ山ふれあい研修センター 主査 刀祢雄大

金沢市立小立野小学校金沢大学附属病院内学級 教諭 座主哲二

- ・「鳴鹿 SDGs～今ぼくたちわたしたちにできること」 (福井県) 坂井市立鳴鹿小学校 教諭 佐藤秀幸
- ・「勝山市の課題を SDGs で考える 3年社会科 地方財政の仕組みと課題」：前任校勝山市立勝山南部中学校の実践  
(福井県) 坂井市立坂井中学校 教諭 伊豆蔵和貴
- ・「味噌蔵 SDGs 講座」味噌蔵町公民館の実践 (石川県) 学生・大学院生グループ (株) ガクトラボ

#### (4) SDGs・ESD eラーニング教材(実践編)の制作プロセスと校内研修

- ①SDGs・ESD eラーニング教材(実践編)の制作校及び制作協力者の公募(6、7月)
- ②制作校及び制作協力者の依頼(7月末)
- ③仕様書の通知及びeラーニング教材制作協力者交流会(8月)
- ④題材となる教育実践の参観及び指導・支援(9月～12月)
- ⑤昨年度のeラーニング教材を参考に視聴(7月～)
- ⑥教材の基本となるスライド、読み上げ原稿、教材となる動画提出と校内研修及びアンケート依頼(11月)
- ⑦1月17日までに動画提出完了及び完成したeラーニング教材で協力校ごとに校内研修を実施し、研修参加者へのアンケート調査の提出完了(2月初旬)
- ⑧提出されたeラーニング教材について学識経験者で検討
- ⑨3月初旬に公開

#### (5) eラーニング教材を活用した校内研修の概要

eラーニング教材(実践編)を制作した各制作協力校では、完成した動画仕立ての教材を職員で視聴する校内研修が実施された。概ね、下記のような内容で行われた。

- ①校内の教職員でeラーニング教材(実践編)を視聴
- ②質疑応答、意見交換
- ③アンケート記入

校内で密になることを避けるため、個人で視聴しアンケートに回答したり感想を報告するなどの手法も取られた。

#### (6) アンケートの集計概要(別添資料:アンケート用紙及びアンケート結果)

実施期間は2021年12月から2022年2月上旬と期間をとっていたが、今回はGoogleフォームの利用ということもあってか、アンケート数24名と昨年度を大きく下回って残念でした。回答の内容を見ると、これまでにSDGsやESDについて学ぶ機会があったと回答したのは100%でした。しかし、「新学習指導要領にESDやSDGsの考

え方が反映されていることについて、研修や授業などで学ぶ機会がありましたか」という設問では、33.3%が「全くない」と答え、「1回あった」を加えると50%となり、未だに教育現場では「新学習指導要領にESDやSDGsの考え方が反映されている」ことが浸透していないことに驚かされた。「今回視聴したeラーニング教材（実践編）はSDGs、ESDを進める上で役に立ちましたか」という設問では、視聴したeラーニング教材（実践編）は違いがあるが、全員が役に立ったと回答しており、役立つ内容となっていることが裏付けられた。良い点、改善点に関する自由記述からは、「とても分かりやすい構成」「視聴する方にとっても理解しやすい」「指導側、学ぶ側共に有効な内容」「生徒の変容も見られて、大変分かりやすい」「授業の方針を変えていかなければならないと考えさせられました」「ESD達成に向けた授業改善の視点を知ることができた」「教科の特性がこれほどSDGsと関連しているということを初めて実感できた」「オンラインで国際交流ができるということを学べてよかった」「どのようにSDGs学習を導入しているか、具体的に知ることができた」「ESD、SDGsの学習をとおしてどんな力をつけたいのか明確になった」や、改善が必要な点として「時間の制約があって、短いのでイメージしにくいところもある。もう少し詳しい内容でも良かったように思う」などたくさんの声が届けられた。

またこれから期待されるeラーニング教材としては、学校で行われているSDGs達成に向けたESDに関する教育実践とともに、

- ・企業や民間団体、地域で行われているSDGs、ESDに関する実践
- ・諸外国の取り組み状況
- ・各教科とSDGsの繋げ方
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）やSX（サステイナブルトランスフォーメーション）に関わる実践や取り組み

などが挙げられていた。また、SDGs、ESDに関する基礎知識、SDGs、ESDの理論、に関する要望も一定数あり、前出の「新学習指導要領にESDやSDGsの考え方が反映されている」ことの研修を受けていない教育関係者が少なくないことと関係していると推察できる。

今後、北陸ESD推進コンソーシアムに必要なこととして、回答者からは「交流会や研修会の開催」「実践者を紹介できる環境」「専門家と質疑応答できる環境」「最新情報の提供」「学生がESDの現場取材できる環境」を挙げている。

#### (7) SDGs・ESD推進検討委員会が果たした役割の特徴

富山県、石川県、福井県ごとに支援コーディネーターを決め、常時支援ができた。また、この間連携を進めてきた金沢SDGsや国連大学OUIKの仲立ちで、SDGs未来都市となっている珠洲市の取り組みを支援している能登SDGsラボと新たに連携することができ、珠洲市で進むSDGs学習や共に農業遺産として登録されているフィリピ

ン・イフガオとの交流を e ラーニング教材化することができた。また、北陸3 県ごとのユニット会議の設置や県別交流会等の推進においても、先行事例を委員会に於いて共有してきた結果でもある。企業や大学が小中学校と連携した独自の取り組みを展開している SDGs 未来都市である能美市や小松市との連携の端緒を委員が切り拓いている。

また、各県ごとのユニット会議や、各県での交流会や報告会、研修会等について協議されている。

(8) e ラーニング教材（実践編）制作協力校及び協力者への感謝状贈呈

今年度も e ラーニング教材（実践編）制作協力校及び協力者に対して、北陸 ESD 推進コンソーシアムから、その労を労い感謝状を贈った。

(9) 開発した SDGs・ESD を進める e ラーニング教材（実践編）の全国的周知及び成果の発信

①北陸 ESD 推進コンソーシアムのウェブサイト (HP)、フェイスブック及び YouTube チャンネル「北陸 ESD」での公開と加盟団体等への周知

②2021 年度北陸 ESD 推進コンソーシアム成果報告会を 2 月 6 日（日）に開催し、文部科学省や ESD 活動支援センター（全国・地方）、全国の ESD 活動拠点、ESD 学会、ESD-J、ACCU、大学や小中高等学校関係者に向けて発信するとともに、リンクしていただいた。

③開発した e ラーニング教材（実践編）を全国の ESD 活動支援センター（全国・地方）や ACCU、ESD-J、各地のコンソーシアムでリンクしていただいた。

④HESD 学会や金沢 SDGs パートナース交流会で北陸 ESD コンソーシアムの取り組みを、e ラーニング教材制作を中心に報告した。

⑤SDGs・ESD e ラーニング教材（実践編）制作協力校を所管する教育委員会や校長会などの関連団体への周知

⑥北陸で展開する SDGs 未来都市へ、活動予定及び e ラーニング教材関連文書等を送付した。（首長部局と教育委員会） 富山県、富山市、南砺市、珠洲市、金沢市、白山市、能美市、小松市、加賀市、福井県、鯖江市

⑦令和 4 年度における SDGs・ESD e ラーニング教材（実践編）制作協力者による各関連学会やフォーラム等での発表および報告の準備

⑧文部科学省に e ラーニング教材及びその対象となった教育実践を紹介した。

(10) 北陸 ESD 推進コンソーシアムの YouTube チャンネル「北陸 ESD」の周知

e ラーニング教材を公開している YouTube チャンネルを、発出する文書で紹介したり、北陸 ESD 推進コンソーシアム HP とリンクさせると共に各連携団体の HP ともリンクしたりするなどして周知を図った。

## 2. SDGs の達成という観点に立った北陸の教員養成

今年度も、収まらないコロナ禍や働き方改革などの影響から、教育委員会は研修を削減し学校はコロナ対応に追われ校内研修会を開催することが難しい状況であった。そこで、オンラインによる研修機会とともに、昨年度確認されたeラーニング教材制作プロセスにおける研修効果を、今年度も充実することとした。

#### (1) SDGs・ESD 研修の工夫

①研修の個別化：eラーニング教材（実践編）の制作に協力いただく学校や先生方、教育委員会ごとに、教材化する方法や教材化する教育実践などについて、個別に助言等の支援を行った。

②eラーニング教材制作プロセスにおける研修機会（研修の共同化）：昨年度、eラーニング教材制作プロセスには通常の教材研究の共同化に加えて、2か所で顕著な研修効果を確認した。1か所目はeラーニング教材制作を始めることを同僚と共有する初期の段階、2か所目はeラーニング教材が完成段階に入って同僚の批評を得る段階である。今年度も、この2か所において期待通りの研修効果が認められた。

③オンラインによる研修の開催：コンソーシアムのコーディネーターが講師となって開催された研修会とともに、交流会や報告会などをオンラインで開催し、例年通りの研修機会を提供できた。また、オンラインになることで、北陸以外からの参加があったことから、コロナ禍が収まった後も対面とオンラインのハイブリッドなると予感した。

#### ④主な研修（制作協力校や協力者との個別研修は除く）

○SDGsの達成に向かうeラーニング教材制作協力者の交流会(8/22)

○2021年度 北陸ユネスコスクール交流会(12/4)

○2021年度石川県SDGs・ESD児童生徒学習活動交流会(1/22)

○2021年度 福井ユネスコスクール交流会(2/18)

○SDGs・ESD教員研修会(富山)(2/19) eラーニング教材(実践編)を活用

○その他小規模な研修会

コーディネーター等を派遣するなどして開催された研修会の開催回数。

・eラーニング教材関連研修 12校 延べ 24回 ・eラーニング教材関連以外 8校 延べ 10回

#### ⑤研修機会を創出するコーディネーター

今年度も収まらないコロナ禍にあって、外部の者の学校訪問自体が難しい状況が続いたが、にあったが、SDGs・ESD推進検討委員会の委員やコンソーシアムのコーディネーターが、参観や参画する機会を昨年度に続いてつくれたことは成果であった。特に、長年続いている富山市教育委員が主催するSDGs-ESD富山シンポジウムの企画、運営に参加・参画している実績に加えて、金沢市の公民館がSDGs講座を立ち上げる今年度に、味噌蔵町公民館から企画、運営の相

談を受け年間6回の「味噌蔵 SDGs 講座」に参加、参画したことは特筆できると考えている。また、教員等を目指す大学生や大学院生がESDを実践する教育現場を取材するという、自主的な学習の場を生み出すことも特筆できる。

#### 主な実績

- ・富山市教育委員会が主催するSDGs-ESD富山シンポジウムの企画、運営に参加・参画
- ・「味噌裏SDGs」講座（年6回の講座の計画、運営、渉外などを担当し、講座の中では一部の講義も担当いた。  
eラーニング教材化として、学生や院生が取材すると共に参加しシニアとの対話を実現できた。）
- ・「金沢SDGs」パートナーズ交流会（毎月1回行われるパートナー間の交流会で、パートナーとなっている北陸ESD推進コンソーシアムのコーディネーターが参加し、コンソーシアムの活動を紹介すると共に、連携した活動を模索しパートナーシップを構築してきている。）
- ・能美市における企業と連携したSDGs学習（年間に幾度となく学校と企業、大学、北陸ESD推進コンソーシアムが連携して、能美市におけるSDGs学習に参加・参画し支援してきている。）
- ・小松市における生涯学習としてのSDGs学習（生涯学習の講座での講義も含めて、講座や児童生徒の学習発表会等の企画や運営について相談を受けている。）
- ・ふくいユネスコが主催し福井大学と連携して開催される福井ユネスコスクール交流会の充実
- ・教員等を目指す大学生や大学院生がESDを実践する教育現場を取材するという、自主的な学習の場を生み出す

#### ○北陸3県の大学や教育委員会などでの授業や研修会、セミナー等実施記録

今年度は、北陸ESD推進コンソーシアムの会員の内、ユネスコスクールを除く団体等を対象に、アンケート調査を行った。回答は15団体から寄せられた。

##### <大学>

金沢大学、富山大学、福井大学、金沢星稜大学等において、例年通り一般教養や教員免許更新講習等で複数回の授業が実施された。

##### <教育委員会>

富山市教育委員会	なし	南砺市教育委員会・エコビレッジ推進課	50講座
石川県教育委員会	28講座	金沢市教育委員会	2講座
福井県教育委員会	無回答	福井市教育委員会	なし
勝山市教育委員会	4講座		

##### <その他>

金沢経済連合会 2 講座 北陸電力 5 講座

公益社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議 4 講座

公益社団法人大学コンソーシアム石川 1 講座 21 人

<寄せられた回答の今後の課題から>

- ・知識だけでなく考え、実践する力をつけること
- ・学校間の温度差
- ・研修ニーズの把握
- ・内容の選択が難しい
- ・会社の業務との関連が難しい

### 3. 周知普及とフィードバック

先に述べた周知普及とフィードバックと重なるが、コンソーシアムの活動で得られた成果を第一義的には、北陸内で共有するための場を例年通りオンラインで設け、成果物や活動の紹介やフィードバック情報を共有した。

○令和3年度第1回北陸 SDGs・ESD 推進連絡協議会

○令和3年度第2回北陸 SDGs・ESD 推進連絡協議会

○令和3年度第3回北陸 SDGs・ESD 推進連絡協議会

○2021年度eラーニング教材制作者交流会

○2021年度北陸ユネスコスクール交流会

○2021年度北陸ESD推進コンソーシアム成果報告会

○その他の活動（各県ユニットごとの活動）

- ・SDGs-ESD 富山シンポジウム
- ・石川県 SDGs・ESD 児童生徒学習活動交流会
- ・福井ユネスコスクール交流

会

### 4. 本事業の外部評価

(1) 外部評価導入の理由：

文部科学省からの補助金を活用する事業の質的向上を図るため、事業計画に外部評価の実施を明記した。

(2) 評価対象事業

令和3年度ユネスコ活動費補助金：SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業

(3) 外部評価委員

中澤静男（奈良教育大学） 永井三岐子（国連大学 OUIK） 鈴木克徳（ESD-J）

(4) 外部評価時期と方法（省略）

## (5) 外部評価の活用

2月6日の報告会における自己評価及び外部評価については、事業結果説明書及び次年度の企画書作成に反映させる予定である。

## (6) 外部評価の概要

### (1) 成果報告会に関して

2年連続のコロナ禍により、学校現場でのESD実践は困難な状況にある。学校現場では新型コロナウイルスの感染拡大により、「例年通り」が通用せず、予定変更も多々あり、対応に追われている。実践意欲の高い教員がESD授業実践を希望しても、管理職によって止められてしまうとよく耳にする。また、働き方改革の流れの中、教育委員会はESDに関する研修会の開催を躊躇している。そのような状況にもかかわらず、11本の実践報告があったことは特筆すべきことである。学校におけるESD授業実践の継続性に関して、成果報告会終了後の意見交換会においてコーディネーターの果たす役割の大きさに気づかされた。池端先生が北陸地方の地域人材は児童生徒のことを、「地域で生活する者」という認識をしているのではないかとおっしゃっていたが、児童生徒を次世代の地域社会の担い手として捉えることが、コーディネーターの活動意欲の基盤になっているのだらうと感じた。学校教育に協力していただける地域人材をコーディネーターに位置づけることの重要性に気づかされた。

コロナの影響があるなかで、オンラインで交流会や報告会などを開催し、先生同士が繋がり、経験を学び合う場が充実してきていることはとても喜ばしいことだと感じている。今後も引き続き、実践者の先生同士がそれぞれ苦労したことや上手くいったことを報告し合い、関係性を築くことができる場を設けることで、さらに北陸全体の取組が発展していくと思う。他地域や他国の優良事例を学ぶ機会なども今後提供できると、さらに深い学びが得られるのではないと思う。まだESDやSDGs学習に取り組んでいないがそのような取組に関心を持っていたり、取組始めたばかりで何をすればいいか模索していたりするような自治体も増えてきているので、そういった自治体の担当者や教育委員会の方にも取組を発信していきたいと思う。

### (2) eラーニング教材開発事業について

eラーニング教材には2つの長所がある。一つは社会連携促進機能、もう一つはESDを広げる研修機能である。奈良教育大学でも1回/月、現職教員と学生を交えたオンラインによる研修会を実施しており、そこでは教員の共通言語でもある学習指導案を中心とした授業検討を行っている。しかしこれでは、教員以外には通用しない。eラーニング教材であれば、地域人材や企業、NPOなどの方々にも伝わりやすく、協力も得られると考えられる。2つ目にESDを広げる研修機能である。新任教員やこれまでESDに関心がなかった教員に対して、eラーニング教材は授業イメージが容易であり、自分も取り組んでみようという意欲化を促すことが期待できる。一方、開発したeラーニング教材の活用方法は検討する余地がある。成果報告に校内研修での利用があったが、同じ勤務校の教員が地域を教材化したeラーニング教材を視聴し、作成した本人と意見交換できると、研修効果は高いと思われる。eラーニング教材をいつでも視聴できるようにすることも大事だが、作成者を講師としたオンラインによるミニ研修会を継続的に開催し、参加者から研修サークルを組織して、研究者の指導の下で学び合いを繰り返すことで、SDGsやESDへの理解を深めると共に、次のeラーニング教材開発者を育成するといったつながりのある研修システムの構築が求められる。一方で、2021年度の研修参加者より求められている「実践者が紹介できる環境」「専門家と質疑応答できる環境」「最新情報の提供」への対応も急務であると感じる。

### (3) 長年にわたるESD活動を踏まえた多面的な展開について

2008年度以降北陸でESDを進め、さらに2014年度には文部科学省の補助金を得て北陸ESD推進コンソーシアムを設立し、継続的にESD・SDGsを実施してきた実績を踏まえて活発な活動を行っていることを高く評価する。このコンソーシアムは、当初から、大学等高等教育機関、教育委員会、ユネスコ協会が連携して取り組むという、いわゆる北陸方式を展開してきたことが大きな特徴である。また、個別の学校というような点に対するアプローチではなく、北陸一円に面的に展開するよう心掛けてきたことも特徴である。特に、100を超える北陸のユネスコスクールに対して、事前申請への指導助言だけでなく、適時のコミュニケーションと支援を行ってきた。また、そのような活動を支えるために、北陸3県で10数名のESD推進コーディネーターを登録し、きめの細かい支援に努めてきた。そのようなこれまでの実績を踏まえ、今年度に北陸3県の11もの学校、施設でeラーニング教材の開発に取り組んだ点を高く評価する。さらに、eラーニング教材の開発にとどまらず、北陸ESD推進連絡協議会をはじめとする様々な活動を展開し、また、富山、石川、福井各県におけるユニットの構築による関係ステークホルダー間の緊密な連携・協力を推進し、ユネスコスクール支援大学間ネットワークを通じたユネスコスクールへの支援活動を行う等、多様な活動により、SDGs、ESDの推進に大きく貢献していることを高く評価する。ユネスコスクールの在り方が変わっていく中で、情報提供をはじめ一層の支援の充実を期待する。

### (4) eラーニング教材による先進的かつ多様な取り組みの紹介について

最近の1、2年は、パンデミックの影響でオンライン授業やeラーニングが急速に普及しているが、北陸では、パンデミックが始まる前の2019年度からeラーニング教材の開発に先進的に取り組んでおり、大きな実績を挙げていることを高く評価する。2019年度のSDGs基礎編、応用編は、2年間でおよそ1,100件の視聴がなされ、2020年度に作成された9件の実践編の動画は、1年間で1,100件の視聴がなされたとの実績は、タイムリーな企画であったことの証明と考えられる。本年度はさらに11の学校、団体からの動画が作成されており、多くの視聴が期待される。3年間をかけて、eラーニング教材のタイプも多様化しており、総合的な学習の時間や教科学習を活用したSDGs・ESDカリキュラムの実践、校内での教員研修などを含むホールスクール・アプローチに向けた学校の取り組み、社会教育施設や学生団体等との協働、海外の学校との交流など、北陸における多様な取組が紹介されていることも大きな成果と言えよう。引き続き、このような活動を継続・強化していくことが強く期待される。



学校活動などにもまだまだ沢山の制限がある中で新たに 11 本もの e-ラーニング教材ができたことは素晴らしく、そして学校内の取組、企業との取組、流域レベルで連携した取組、森林公園との取組、海外との取組、公民館と大学生の取組など、取組に多様性があつたことも良かった。異なる学年や学校、地域同士で学び合う機会を設けたり、生徒自身が実践や調査を行いさらに今後の取組を考えたり、五感を使った学びを進めたりと、深みのある学習が 3 県で実践されていることが良く分かった。取組紹介の中で他の学校の先生の参考になるようなツールや教材の紹介などもあり、非常に重要な知の蓄積ができたと思う。いつでも誰でもアクセスできる形でこのような情報がまとまったことはとても素晴らしいと思う。

#### (5) 多様な資金源の活用について

北陸における SDGs・ESD を進めるため、文部科学省の補助金だけでなく、地球環境基金などの他の多様な資金源を活用している点も評価に値する。今後とも、資金源の多様化を進めることが期待される。

#### (6) e-ラーニング教材作成にあたっての視点、留意事項の明確化について

前述のように、扱われている e-ラーニング教材は、多岐にわたっており、多様性に富んだ内容になっている。これまではそれぞれの学校、教員による個別の努力によって試行錯誤的に教材が作成されてきたが、今後、それらの教材を作成するにあたって考慮すべき基本的な視点、留意事項などを明らかなしておくことが重要と考えられる。そのような視点、留意事項としては、例えば以下のような事項が考えられる。

- ・主体的な学びになっているか？
- ・探究的で深い学びが行われているか？
- ・対話的な学びが実践されているか？
- ・地域に開かれた、地域の人々を巻き込んだ活動になっているか？
- ・世代間交流の場づくりの可能性なども含めて検討されることが望ましい。
- ・ホールスクールアプローチが指向されているか？
- ・他校、特に海外の学校との交流が行われているか？
- ・SDGs との繋がりがどのように意識されているか？
- ・実践行動への展開に結びついているか？
- ・段階的な学びとして次のステップにつながるような工夫がなされているか？

上記の視点や留意事項は、必ずしもすべての教材開発に一律に当てはまるものではないが、自らの教材開発にどの事項が該当するかを考慮しながら進めることには意義があると考えられる。

今後の活用という意味では、教材を利用する側の目線で考えることも必要になってくると思われる。ESD や SDGs の取組に関心を持った方でも全ての動画を視聴するというのはなかなか時間的にも難しいと思われるので、例えば動画の中で紹介されているツールの紹介ページを設けたり、カテゴリごとに動画を選べるような仕組みを考えたりするなど、利用者が求める情報にたどり着きやすくする工夫を今後考えていく必要があると思う。

#### (7) 発表の場から意見交換の場への展開について

昨年度、今年度の成果報告会に見られるように、多くの多様な e-ラーニング教材が開発されたため、それらの発表、情報共有に多くの時間が割かれ、結果的に、相互に議論し、意見交換を行う時間が十分に取れていない。忙しい学校の先生方に対して多くの時間を求めることには限界があると思われるものの、あらかじめ他の作成者の教材を見てもらっての議論の場にするとか、あるいは本数が多い場合には何回かに分割して意見交換の機会を増やすとかの工夫ができると、参加する教員間の学びが深まると考えられる。また、成果報告会、意見交換会には、学校教員だけでなく、潜在的に関係し得る様々なステークホルダーの参加を促すことも重要である。

#### (8) より広範な成果の広報・周知について

昨年度も指摘されているが、北陸域内のみならず、北陸以外の地域にも広く知ってもらえるように、より広い広報・周知活動の展開が期待される。今年度は、2021 年 11 月に「高等教育における ESD フォーラム (HESD フォーラム)」で発表が行われ、さらに ACCU によるユネスコスクール公式ウェブサイトへの掲載が検討されていると承知しているが、さらに、日本 ESD 学会、ESD 活動支援センター全国センター、ユネスコスクール全国大会、ESD-J などでの発表やウェブサイトでの掲載なども検討することが望ましい。また、北陸 ESD 推進コンソーシアムのフェイスブックのみならず、上記の団体が有する SNS を通じて、e-ラーニング教材のアクセス方法などに関する情報を広く共有することが有効と考えられる。

#### (9) その他

世界的には気候変動教育が大変重要な課題になっており、国際的にも国内的にも様々な気候変動教育の取り組みが紹介され、共有されつつある。ぜひ来年度以降、世界的な動向を踏まえ、北陸における気候変動教育への取り組みについても紹介されることを期待する。

国別の SDGs 達成状況が毎年発表されているが (Sustainable Development Report)、その中で日本の達成状況が低く、課題としてあげられているゴールに関する取組を後押ししていくことも考えていけると良いと思う。これらのゴールの達成に向けて北陸地域が持っている強みを生かしながら、地域が抱える課題を教育の分野から地域や企業と一体となってクリアしていけるような流れになると良いと思う。今後の教材の活用と北陸 ESD コンソーシアムの取組の発展を期待しています。

## 5. 本事業の総括と展望

今年度は、これまで3年計画で実施してきたSDGs達成に向けたeラーニング教材開発事業の最終年であった。1年目の基礎編、2年目の実践編、そして3年目の本年度は、eラーニング教材の多様化、学校と企業や団体、社会教育施設等との連携、ESDの実践を目指す教員や学生のプラットフォームづくりなどに取り組むことができた。また、学校教育だけではなく社会教育や家庭教育におけるESDなども視野に入れながら、北陸ESD推進コンソーシアムが、トータルな教育分野におけるプラットフォームとして活動を広げていく準備ができた年度となった。

### 【成果】

#### ○SDGs達成に向けたeラーニング教材開発

・今年度はESDの実践を目指す教員や学生のプラットフォームづくりの一環として、8月にeラーニング教材制作協力者交流会を開催し、昨年度と今年度の制作協力者が一堂に会して、自身の授業実践や教材作りに関する情報交換と、ESDに対する思いの本音トークを行うことができたことは大きな前進であった。また、話し合いの中で参加者相互が連絡し合い助言し合う場をSNS上に作るができないかとの相談もなされ、その後の試行につながっている。

・昨年度に続きeラーニング教材(実践編)を11本制作し公開できたことも大きな成果であった。SDGs・ESDを進める「学校の教育実践」「国内外の学校交流」「企業・NPO等との連携」「社会教育との連携」「教育実践を学生や院生が取材」という5つのカテゴリでの公募という過程を経て、北陸3県で小・中学校の異なる校種と野外教育施設、公民館、団体の7校2施設1団体で作成し公開できたことは、来年度以降の更なる広がりや深まりが期待できる。また、学校教育以外の教育分野での事業展開の可能性も更に高まった。

・これまでも学校等が質の高い教育実践を行いながらも、その実践がSDGsの達成やESDの視点から見て大きな価値を有していることの認識が弱いという面があった。今年度、この問題に正面から取り組んだ学校が、その取り組みをeラーニング教材化した。校内での教育実践と教員の研修とを結びつけるプロセスによって、SDGsやESDについて理解するだけでなく、自校や自身の教育実践が、SDGsやESDの視点から見て価値を有していることを具体的に認識し、以後のESDの教育実践を行うカリキュラム・マネジメントを育成することとなったことは評価できる。

・昨年度、コロナ禍でできなかった将来教師を目指す大学生や大学院生などが教育現場を取材して、その教育実践を紹介するタイプの教材づくりが、公民館におけるSDGs講座を対象にして行うことができた。取材の過程で大学生や大学院生も講座の学習に参加したことから、講座生のシニアとユースとの会話が生まれ、双方から好評であった。

・今年度、金沢市で始まった公民館におけるSDGs講座の計画、運営を、北陸ESD推進コンソーシアムが支援することとなった。その計画の基本を身近な地域の小中学校で進むSDGs・ESDの授業に学ぶこととし、学校での取り組みに

ついて学んだり、取り組みを講座生が追体験したりしたことは、受講生の評価も高かった。公民館など社会教育における SDGs・ESD について学ぶ場合のプロトタイプになると自負している。また、「開かれた教育課程」という面からも学校の SDGs・ESD 教育実践を地域に伝える一助となったことも成果であった。

#### ○教員養成及び支援

・これまでの2年間で制作してきたeラーニング教材の視聴が進んでいる。YouTubeの北陸ESDチャンネルで公開している一昨年度のSDGs・ESDに関するeラーニング教材(基礎編)2本と昨年度のeラーニング教材(実践編)の9本の視聴回数が、2022年1月現在でそれぞれ1100回を超え合わせて2200回を超えており、利活用が進んでいることが伺えた。校内研修や大学での授業、個人研修として利用されていることも報告を受けている。加えて、昨年度、eラーニング教材化もされた新しい野外体験研修プログラム「里山オリエンテーリング」の今年度の実施状況は34校(団体も含む)2985人に上っており、大きな成果である。

・今年度もコロナ禍にあつてカリキュラム・マネジメントが難しい状況にありながら、eラーニング教材制作を通して、SDGs達成に向けたESDの授業実践やカリキュラム開発が行われ、その制作と開発を支援できたことは特筆できる。全国的な課題である学校交流では国内、国外の双方の交流実践やNPOなどの団体や社会教育施設と連携した実践、昨年度実施できなかった大学生や院生がESDの学習現場を取材して教材作りを行うなど、昨年度にも増して多様な実践をカリキュラム・マネジメントの観点で教材化できたことは、将来のホールスクール・アプローチに向けた準備に寄与できたと考えている。

・昨年度以上に、北陸ESD推進コンソーシアムのコーディネーターが、教材制作プロセスで各学校の管理職及び制作協力者である先生方と、事前、事中、事後にわたり継続的に協議、助言できたことは、OJTにも合致しており、人材育成におけるeラーニング教材制作プロセスが持つ研修手段としての有効性と重要性を改めて確認した。また、eラーニング教材(実践編)の動画を校内の同僚たちに視聴してもらいアンケートに回答する形で助言してもらったプロセスも、教材の改善と共に校内研修としても有効であったと確認した。

・昨年度と同様に、本年度も授業や研修への参加・参画が進んだ。富山市教育委員会主催のSDGs-ESD富山シンポジウムや金沢市の公民館のSDGs講座の開設、金沢SDGsパートナーズ交流会、能美市のSDGs学習における企業・大学・北陸ESD推進コンソーシアムの連携、小松市の生涯学習におけるSDGsプログラムなどについて、年間を通して参加・参画をしていることは、これまでの支援の幅を広げたとと言える。

・昨年度は福井県において福井大学、勝山市教育委員会と北陸ESD推進コンソーシアムとの連携が進む中で、ふくいユネスコ協会の呼びかけで、第1回福井県ユネスコスクール交流会が開催され、今年度も2月に開催された。同様に、

石川県においても今年の1月に、第1回石川県SDGs・ESD児童生徒学習活動交流会を開催することができた。先行して同様の会を毎年開催してきた富山も合わせて、北陸3県それぞれで児童生徒が学習成果等を発表、交流する場ができたことは大きな一歩である。

・身近な教育実践によるeラーニング教材（実践編）を同僚に視聴してもらい意見交換するなど、自校での自主的研修コミュニティ形成のし易さや、YouTubeにアップロードしたeラーニング教材（実践編）を視聴する個別の研修機会の設定のし易さなどは、教員の働き改革の中でその有効性を感じた。このことは、この様な制作プロセスと完成後の活用プロセスを重視するeラーニング教材は、同僚や専門家などつながり、自主的自律的に研鑽し非公式な研修コミュニティを形成するための媒体となる可能性も見せてくれた。

今年度の研修機会の創出状況をみると、19回の機会を提供し804人が参加していただいております、eラーニング教材制作プロセスにおける研修機会を除いた数字であることから、一定の研修機会を北陸において提供できていると考える。

#### ○周知普及

・今年度もコロナ禍で開催時期が8月から12月へと遅らせることになったが、長年続けてきた北陸ユネスコスクール交流会を開催し、北陸3県から3校のSDGs・ESDの実践発表と信州ESDコンソーシアムと連携して、長野から山ノ内町教育委員会における教育行政の取り組みがゲスト報告され、4つを通して交流及び共有ができた。

・毎年、2月に行っている成果報告会では、5つのカテゴリーにおけるeラーニング教材（実践編）及びそのベースとなった教育実践11本の報告という手応えのある発表と協議、講評、そして、補助金、助成金関係の事業結果報告をオンラインで開催するとともに、その中で昨年度に引き続き外部評価を実施できた。

・石川県ユネスコ協会と共催して行ってきた「北陸ESD推進連絡協議会」については、委員を増員し年間3回開催することができた。参加する委員の活動母体における実践報告やSDGs達成に向けたESDの推進について、委員間で共有し多方面からの協議ができた。

・今年度の上半期において、HPの改築を終了し、eラーニング教材を載せるYouTubeチャンネルとのリンクやフェイスブックとのリンクを完了した。そのこともあって、YouTubeの北陸ESDチャンネルで公開している、一昨年度のSDGs・ESDに関するeラーニング教材（基礎編）2本と昨年度のeラーニング教材（実践編）の9本の視聴回数が、2022年1月現在でそれぞれ1100回を超え合わせて2200回を超えており、周知が進んでいることが伺えた。校内研修や大学での授業、個人研修として利用されていることも報告を受けており高く評価できる。

・これまでの課題である北陸ESD推進コンソーシアムの活動や成果を外部に積極的に発表・報告することについては、HESD学会での発表や金沢SDGsカフェでの実践報告等を行った。また、交流会や報告会について、ESD活動支援セ

ンターや ACCU などとのリンクを貼ることも進めることができた。

・コロナ禍の中で企業会員などの団体会員の活動が難しい状況にあって、JICA 北陸が新たに会員として登録され、今後の連携を進めたいと考えている。また、北陸3県におけるコーディネーターの増員を図ることができたことは、各県ごとのきめ細やかな支援を充実できると考えている。

#### 【課題と展望】

・国やユネスコのユネスコスクールへの新たな期待や文部科学省の ESD の手引き改定を受けて、北陸における SDGs 達成に向う ESD の授業の質の向上と深化を図る現職教員や未来の学校づくり授業づくりを志す教員を目指す学生や院生の専門性開発を支援すると共に、SDGs 達成に向う ESD を進める学校や教員を支援する大学・企業・団体による学校連携を推進する。

・SDGs 達成に向けた ESD が進展する上で、それを志し担う教員の専門性の開発を、自発的で自律的に行えるよう教師が主導し協働するコミュニティーづくりを支援することが重要である。その点からも、今年度開催した e ラーニング教材制作協力者交流会、石川県 SDGs・ESD 児童生徒学習活動交流会実行委員会（非公式）を継続開催するとともに、安心して教員や学生が学校や地域を越えてつながり支援し合う安全・安心のコミュニティーが創出されるよう支援することが求められている。

・令和1, 2, 3年度の3年間の成果である、北陸における SDGs 達成に向う e ラーニング教材開発は継続し、教材としてもベースとなる教育実践としても質の向上を図る。特に、教員をめざす学生が減少している中、SDGs 達成に向かう ESD のおもしろさ、ダイナミズムを実感できるよう教育現場取材型の e ラーニング教材を制作、発信することが重要である。また、将来の投稿型のサイトになっていくためにも、投稿されたものの検索がしやすい環境を用意することが必要である。

・SDGs 達成抜に向けた ESD を進める授業実践のカリキュラム・マネジメントにおいて、カリキュラム・デザインの中核を成す教科や単元等における「本質的な問い」や「セントラル・アイディア」などと称される中心概念を SDGs のゴールとの関連から明確にした授業づくりと、その授業づくりが授業の革新に迫り得ることを教材化する。

・SDGs 達成に向けた ESD を進める授業の質の向上と深化や、教員の専門性の向上を見える化を図るとともに、学校で行われている ESD の教育実践の価値を保護者や地域住民と共有するために、探究的な学習の教育評価にもつながる児童生徒による学習活動の交流や報告、発表及び地域の活動への連鎖などについて、現状の成果と問題点を整理し、子供たちが真に成長できる環境設定について明らかにする。

・これまでの e ラーニング教材の基礎編、実践編に加えて、SDGs 達成に向けたホールスクール・アプローチの先駆的な取り組みを行う教育委員会や学校を取り上げ、その全体像を教材化する「教育経営編」を制作する必要があると考える。

・外部への発信を強化するため、YouTube や SNS（フェイスブック）での発信の強化とホームページとのリンク、全国の ESD 活動拠点等とのリンク等を、これまで以上に進めたい。

・北陸における SDGs・ESD を進める教育実践や研修、e ラーニング教材の活用実態などを定量的かつ定性的に調査できるようにする。

・ESD を進める学校と社会教育（公民館）、企業、NPO 法人などとの連携のみならず、社会教育や企業内教育、家庭教育における SDGs を達成するための ESD について支援を拡充する。

・昨年度コロナ禍で実施できなかった北陸の 11 地域の SDGs 未来都市における教育分野の連携協力関係を構築するため、「第 1 回北陸 SDGs 未来都市の教育（ESD）フォーラム」（仮称）を企画、開催するとともに、SDGs 達成に向かう ESD の魅力を発信する。

#### 【石川県ユネスコ協会：令和 3 年度地球環境基金助成金事業】

##### 「北陸における SDGs 達成に向けた ESD プログラムの開発」

###### ① 北陸版 SDGs ガイドの開発・普及（プロジェクトチーム）

→ 北陸版 SDGs ガイドの改訂版の作成準備中。

（プロジェクトチームにより、コンソーシアム・ユネスコ協会・ユネスコスクールとの連携ができ、まとまって、SDGs 達成のための ESD 推進活動ができた。）

###### ② SDGs 達成に向けた ESD プログラムの開発・普及

→ コロナ禍のため、対面での研修会等がほとんどできなかったが、ほぼ毎月オンラインでプロジェクトチームによる、SDGs 達成に向けた ESD 推進活動の北陸三県の状況・ESD 実践校進捗状況を共有し、各メンバーがそれぞれの実践校・実践者を支援した。モデル事業の報告は準備中。

###### ③ SDGs・ESD 普及セミナー

石川：12 月 4 日 北陸ユネスコスクール交流会（WEB）参加者 30 名

1 月 22 日 石川県 SDGs・ESD 児童生徒学習活動交流会 参加者 31 名

福井：2 月 18 日福井ユネスコスクール等 SDGs 交流会（予定）

富山：2月に教員向け研修会（ESD 講座委員会 WEB）（予定）

④ 北陸における SDGs・ESD 推進のためのプラットフォーム構築

目的：北陸の SDGs・ESD に関する活動を共有し、協働活動を促進し、関係者の連携を強化し、地域ユネスコ活動のより広範な広報・普及を図るため。

・6月に大学・行政・NPO・民間ユネスコ協会等の主要な SDGs・ESD 推進関係者からなる協議会を設置。33名（大学・行政・NPO・民間ユネスコ協会等の関係者）を委嘱する。

★ 7月16日 第1回北陸 ESD 推進連絡協議会（23名出席）

★ 10月18日 第2回北陸 ESD 推進連絡協議会（21名出席）

★ 1月24日 第3回北陸 ESD 推進連絡協議会（13名出席）

→ 協働に向けた情報交流・連携が少しずつ進み、連携する関連イベント数が増加した。

⑤ 今年度の成果

コロナ禍により学校における授業が大幅に圧迫されているため、SDGs 達成に向けた授業を実践している北陸のユネスコスクール等の数・状況は正確には把握できなかったが、SDGs・ESD 普及セミナーでみられる実践発表の児童生徒・先生の活発な活動から、ユネスコスクールを中心に確実に ESD 学習は推進されていると思われた。孤立傾向の学校が SDGs・ESD 普及セミナーの交流によって相互に刺激しあい、SDGs 達成のために ESD 推進しようとする意気込みを得たようである。

また、実践者が集まって初めて独自に企画・実行された石川県 SDGs・ESD 児童生徒学習活動交流会にみられるように、SDGs を梃に実践者の連携が始まったように思われる。

さらに、北陸の 33 団体・個人が参加した北陸 ESD 推進連絡協議会が設置され、情報、経験を共有し連携することが出来てきて、北陸の ESD 推進のためのプラットフォームづくりに弾みがついた。

**【日本ユネスコパートナーシップ事業について】**

令和3年度ユネスコ未来協創プラットフォーム事業

「ユネスコ未来協創プラットフォームの発展に資するユネスコスクールネットワーク活性化事業」での取組について  
本事業では、ユネスコスクール加盟申請校や加盟校に対して、①加盟申請前、②チャレンジ期間から加盟申請時、③加盟後のそれぞれの段階での、学習やカリキュラム作り・改善に向けての支援、講義演習・研修、書類作成支援などを行った。

以下、今年度本事業での取り組みを示す。

※なお、今年度前半はコロナ禍のためメール、電話での対応が主となり、後半、若干緩和された時期に訪問の機会があった。

- ・ 南砺市立平中学校 （加盟申請に向けての相談・打ち合わせ、21年12月21日訪問）
- ・ 石川県立大聖寺実業高等学校 （チャレンジ期間の取り組み、申請書類作成に向けての打ち合わせ、22年1月6日訪問）
- ・ 国際高等専門学校（石川県）（チャレンジ期間の取り組み、申請書類作成に向けての打ち合わせ、22年1月14日訪問）
- ・ 仁愛女子高等学校（福井県）（チャレンジ期間の取り組み、申請書類作成に向けての打ち合わせ、22年1月12日訪問）
- ・ 南砺市立上平小学校 （チャレンジ期間終了後の申請書類作成支援等、主にメール及び遠隔会議システムで実施）
- ・ 小松市立板津中学校 （チャレンジ期間終了後の申請書類作成支援等、主にメール等で実施）







- おのりに - 2学期の活動が画一
- ①夏休みの取組の振り返り
  - ②子どもたちによるパネルディスカッション
  - ③学習のまとめ
  - ④南富山駅周辺の写生会(展示予定)

・「身近な駅を通して住み続けられるまちづくりに向けて働きかける子ども-その2」

### 身近な駅を通して住み続けられるまちづくりに向けて働きかける子ども - その2 -

第5学年 総合的な学習の時間  
単元 南富山駅

富山市立堀川小学校  
教諭 田平 佳祐

### 研究実践の内容

- ① 子どもたちによるパネルディスカッション
- ② まちづくりに向けた社会参画(課外)
- ③ パネルディスカッションとイベントを終えて



### 研究実践の内容

- ① 子どもたちによるパネルディスカッション
- ② まちづくりに向けた社会参画(課外)
- ③ パネルディスカッションとイベントを終えて

### 子どもたちによるパネルディスカッション(1)

10月15日

パネラーのまなこ  
パネラー(司会)の質問

中間からの意見  
(Audienceからの質問)

オペレーターの感想

南富山  
まちづくりの会

市役所の方

南富山商店街の方

宇都宮市民の方

### 子どもたちによるパネルディスカッション(2)

10月16日

司会者(Aさん)  
南富山駅や商店街の利用者の視点から、改めて公共交通の必要性を実感する。

パネラー(Cさん)  
駅舎の古さは関係ない、自分ができることを実践することが大切だ。  
駅で働く人の優しさを伝えるために、できることを考える。  
駅で働く人の努力や工夫を更に実感

パネラー(Bさん)  
・機械化するための予算や機能について具体的に考えていく。  
・駅へのよさが失われなくなるように。

パネラー(Dさん)  
現在の南富山駅は、利用者にとって便利。それは、駅で働く人の努力や工夫のおかげ  
・南富山駅や駅で働く方への愛着

様々な立場の意見を聞き、南富山駅を多面的・多角的に考える場

### 子どもたちによるパネルディスカッション(3)

10月17日

司会者(Aさん)  
南富山駅や商店街の利用者の視点から、改めて公共交通の必要性を実感する。

パネラー(Cさん)  
駅舎の古さは関係ない、自分ができることを実践することが大切だ。  
駅で働く人の優しさを伝えるために、できることを考える。  
駅で働く人の努力や工夫を更に実感

パネラー(Bさん)  
・機械化するための予算や機能について具体的に考えていく。  
・駅へのよさが失われなくなるように。

パネラー(Dさん)  
現在の南富山駅は、利用者にとって便利。それは、駅で働く人の努力や工夫のおかげ  
・南富山駅や駅で働く方への愛着

様々な立場の意見を聞き、南富山駅を多面的・多角的に考える場

### 子どもたちによるパネルディスカッション(4)

10月18日

司会者(Aさん)  
南富山駅や商店街の利用者の視点から、改めて公共交通の必要性を実感する。

パネラー(Cさん)  
駅舎の古さは関係ない、自分ができることを実践することが大切だ。  
駅で働く人の優しさを伝えるために、できることを考える。  
駅で働く人の努力や工夫を更に実感

パネラー(Bさん)  
・機械化するための予算や機能について具体的に考えていく。  
・駅へのよさが失われなくなるように。

パネラー(Dさん)  
現在の南富山駅は、利用者にとって便利。それは、駅で働く人の努力や工夫のおかげ  
・南富山駅や駅で働く方への愛着

様々な立場の意見を聞き、南富山駅を多面的・多角的に考える場

### 子どもたちによるパネルディスカッション(5)

10月19日

司会者(Aさん)  
南富山駅や商店街の利用者の視点から、改めて公共交通の必要性を実感する。

パネラー(Cさん)  
駅舎の古さは関係ない、自分ができることを実践することが大切だ。  
駅で働く人の優しさを伝えるために、できることを考える。  
駅で働く人の努力や工夫を更に実感

パネラー(Bさん)  
・機械化するための予算や機能について具体的に考えていく。  
・駅へのよさが失われなくなるように。

パネラー(Dさん)  
現在の南富山駅は、利用者にとって便利。それは、駅で働く人の努力や工夫のおかげ  
・南富山駅や駅で働く方への愛着

様々な立場の意見を聞き、南富山駅を多面的・多角的に考える場

### 子どもたちによるパネルディスカッション(6)

10月20日

司会者(Aさん)  
南富山駅や商店街の利用者の視点から、改めて公共交通の必要性を実感する。

パネラー(Cさん)  
駅舎の古さは関係ない、自分ができることを実践することが大切だ。  
駅で働く人の優しさを伝えるために、できることを考える。  
駅で働く人の努力や工夫を更に実感

パネラー(Bさん)  
・機械化するための予算や機能について具体的に考えていく。  
・駅へのよさが失われなくなるように。

パネラー(Dさん)  
現在の南富山駅は、利用者にとって便利。それは、駅で働く人の努力や工夫のおかげ  
・南富山駅や駅で働く方への愛着

様々な立場の意見を聞き、南富山駅を多面的・多角的に考える場

### 子どもたちによるパネルディスカッション(7)

10月21日

司会者(Aさん)  
南富山駅や商店街の利用者の視点から、改めて公共交通の必要性を実感する。

パネラー(Cさん)  
駅舎の古さは関係ない、自分ができることを実践することが大切だ。  
駅で働く人の優しさを伝えるために、できることを考える。  
駅で働く人の努力や工夫を更に実感

パネラー(Bさん)  
・機械化するための予算や機能について具体的に考えていく。  
・駅へのよさが失われなくなるように。

パネラー(Dさん)  
現在の南富山駅は、利用者にとって便利。それは、駅で働く人の努力や工夫のおかげ  
・南富山駅や駅で働く方への愛着

様々な立場の意見を聞き、南富山駅を多面的・多角的に考える場

### 子どもたちによるパネルディスカッション(8)

10月22日

司会者(Aさん)  
南富山駅や商店街の利用者の視点から、改めて公共交通の必要性を実感する。

パネラー(Cさん)  
駅舎の古さは関係ない、自分ができることを実践することが大切だ。  
駅で働く人の優しさを伝えるために、できることを考える。  
駅で働く人の努力や工夫を更に実感

パネラー(Bさん)  
・機械化するための予算や機能について具体的に考えていく。  
・駅へのよさが失われなくなるように。

パネラー(Dさん)  
現在の南富山駅は、利用者にとって便利。それは、駅で働く人の努力や工夫のおかげ  
・南富山駅や駅で働く方への愛着

様々な立場の意見を聞き、南富山駅を多面的・多角的に考える場

### 研究実践の内容

- ① 子どもたちによるパネルディスカッション
- ② まちづくりに向けた社会参画(課外)
- ③ パネルディスカッションとイベントを終えて

### まちづくりに向けた社会参画(課外)

10月23日

まちづくりの会の方より、授業の実践に1年生にイベントのお知らせに行く子どもたち  
に向けた説明 令和3年11月8日

南富山駅や地域を盛り上げるための授業(7月)

まちづくりの会の方、地域を動かす

観音村の全校にチラシを配布

令和3年11月13日

### まちづくりに向けた社会参画(課外)

10月24日

参加者に子どもが作成した学習のまとめとQRコードのアンケートを配布

みんぱく 福のふし

<アンケートの内容>  
 ①南富山駅があると便利です?  
 ②今後、どのようなイベントを開催してほしいですか?  
 ③南富山駅のことをどのように思っていますか?  
 ④より南富山駅を利用するために何が必要ですか?  
 など



研究実践の内容

- ① 子どもたちによるパネルディスカッション
- ② まちづくりに向けた社会参画(課外)
- ③ パネルディスカッションとイベントを終えて

作文の題名「知る→好き→にぎわう」

● 題材で、チラシを配りました。チラシには、字が多くてあまり読んでもくれないようにも見えました。今度は、図を入れてより読みやすいようなチラシにしたいです。  
 ○ 古い南富山駅だけれど、いいところを伝えることで、南富山駅の影響が変わってくれたらいいなと思いました。  
 ● イベントも2日間やっただけでは、南富山駅や南富山は盛り上がりません。  
 ○ 電車に乗る人には割引にすること、クイズラリーで全園正解者には無料券を配布することを通して、南富山駅や南富山について知ってもらい、好きになってもらえたらいいなと思います。  
 学習の対象が南富山駅から人の思いや願いへと変化する

おわりに 一提案と課題

身近な駅を通して住み続けられるまちづくりに向けて働きかける子ども  
 ○ 南富山駅という身近な地域にある対象を学習として取り上げることで、私たちの地域が抱える様々な課題を理解することができた。また、自分たちの思いや考えを具体的に行動、実践化することで、地域の一員としての自覚や愛着を深めることができた。  
 ○ 南富山駅という対象を通して、高齢化や環境問題等、どの地域も抱えている持続可能な社会を目指すための課題について、自らの実感を伴いながら理解を深めることができた。  
 ▲ 会社の経営や行政の立場等の様々な事情から、解決に困難な課題もあった。子どもの観点から広がり、どこまで子どもたちの学習として取り上げるべきであったのかなど、教材研究や単元構想の吟味が必要である。

・「割山森林公園「天湖森」を地域を宝に」

(富山県) 高山市立神通碧小学校 武部 光志 教諭

第6学年 総合的な学習の時間・学校行事  
 割山森林公園「天湖森」を地域の宝に  
 ～水辺植物園から考える天湖森の自然と未来～



富山市立神通碧小学校  
 教諭 武部 光志

全校児童56名の小規模校  
 自然豊かな学校



神通碧小学校

プロジェクト名  
 割山森林公園「天湖森」を地域の宝に

期待する子供の姿

・ 地域にある「天湖森」を誇りに思い、未来に残していくために、自分にできることから行動していく子供



プロジェクト名  
 割山森林公園「天湖森」を地域の宝へ



教材性 〈割山森林公園 天湖森〉

- (1) 子供たちの遊び場
- (2) 地域の方々の思いや願いからできた場  
地域の魅力 過疎化 少子化
- (3) 体験を通して学べる場  
株式会社ほせいり  
天湖森のスタッフの方  
さんたらう倶楽部  
しんやう倶楽部
- (4) 地域の方と協働できる場



教材との出会い

天湖森に行き、スタッフの方の思いや願いを知る。



地域の人に来てもらうには? まずは、身近な下学年に来てもらおう!!



五感を使った自然体験

多面的・総合的に考える力

○ グリーンアドベンチャーのオリエンテーリング



ゲストティーチャー

多面的・総合的に考える力



五感を使う

オリエンテーリングの問題

進んで参加する態度



- やってみよう!
- ① 展望台から見える物を3つ答えよう!
  - ② 展望台で「ヤッホー!」と叫んでみよう!
  - ③ 美しい音をたたくとどんな音がする?
  - ④ 何の生き物の鳴き声が聞こえる? 耳を澄ませてみよう!
  - ⑤ ドラダとのおいをかいでみよう!
  - ⑥ スタッフの方とじゃんけんをしよう!

問題  
 このオリエンテーリングの問題は、天湖森の自然や文化を伝えるための問題です。天湖森の自然や文化を伝えるための問題です。天湖森の自然や文化を伝えるための問題です。

天湖森オリエンテーリング

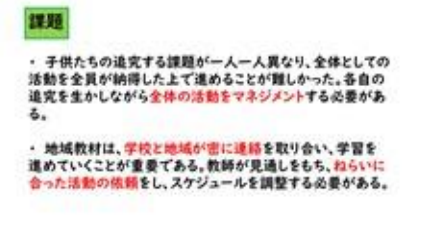
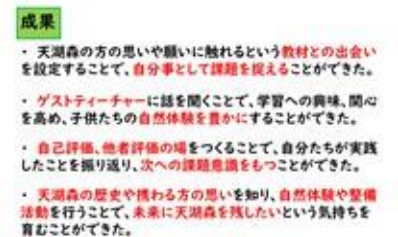
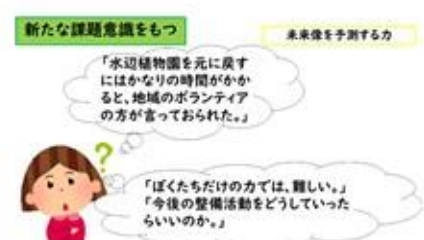
コミュニケーション能力  
他者と協力する力



天湖森オリエンテーリング

コミュニケーション能力  
他者と協力する力





・「身近なSDGsと私たちがかわり～海の豊かさと神通川の上流の関係～」  
(富山県) 富山市立椴原中学校 鈴木 友之 教諭



**実践報告 内容**

- 富山市立椴原中学校の紹介
  - 県内の中学校で唯一のユネスコスクールとしての役割
- 学習テーマ設定について
  - 未来を担う子供たちが自分事として学習に取り組める手立て
  - 身近な問題として考える

**実践報告 内容**

- SDGs 学習の実践
  - 個人課題解決学習
  - 校外学習 (NPEC訪問、海洋ゴミ拾い活動)
  - 組入地域、神通川のごみ拾い
  - 富山市立岩瀬中学校との交流
- 今後の課題・学習計画
  - 地域のごみを減らす対策

**①富山市立椴原中学校の紹介**

**学校教育目標**

- 個性豊かな人間の育成
- 愛情に満ちた人間の育成
- 実践力に富んだ人間の育成

**目指す学校**

- 活力と「ありがとう」にあふれる学校
- 「共に歩み 共に学び 共に創ろう」を合い言葉に、生徒、教職員、地域が一体となる学校

**①富山市立椴原中学校の紹介**

- 全校生徒30名の富山市内最小規模校
- 周囲を山々に囲まれた自然豊かな学校
- 県内の中学校唯一のユネスコスクール加盟校
- 生徒一人一人が主体となり、積極的に教育活動に取り組む学校

**①富山市立椴原中学校の紹介**

- 岐阜県境に位置し、椴原地域内を神通川が流れている

○県内の中学校唯一のユネスコスクールとして

・ユネスコスクールとは？  
→ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校。  
(文部科学省ホームページより抜粋)

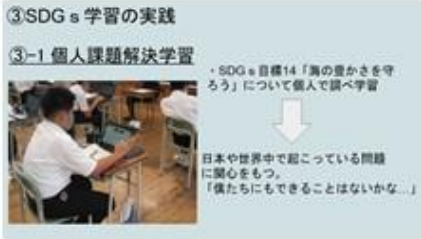
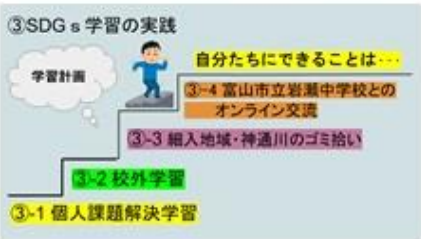
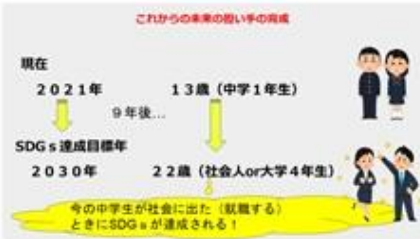
○県内の中学校唯一のユネスコスクールとして

・ユネスコスクールの活動目的

ユネスコスクール・ネットワークの活用による世界中の学校と生徒間・教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと。

地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと。

ESD                      SDGs



○岩瀬浜のゴミ拾い、分別をした生徒の感想

○今日の学習(活動)を経て感じたことを振り返ろう

10月7日(木) 19:00頃～20:00

今日の学習を通して、海に近づくことでゴミの多さや種類が気になりました。ゴミがプラスチックゴミは海の中の生き物の命を脅かしているのかもしれないと、ゴミを分別してゴミを減らそうと思います。プラスチックゴミが多かったのは、思ったよりも、です。

○岩瀬浜のゴミ拾い、分別をした生徒の感想

10月7日(木) 19:00頃～20:00 岩瀬浜のゴミ拾い

今日は、今日の学習で知ることができた。プラスチックゴミが多いと、海はきれいになるけど、海は汚れると、生き物が死んでしまう。プラスチックゴミは、海の中の生き物の命を脅かしているのかもしれないと、ゴミを分別してゴミを減らそうと思います。プラスチックゴミが多かったのは、思ったよりも、です。

○岩瀬浜のゴミ拾い、分別をした生徒の感想

10月7日(木) 19:00頃～20:00 岩瀬浜のゴミの分別

岩瀬浜は、海がきれい

なのに、めちゃくちゃなゴミが、たくさん出てくる。プラスチックゴミは、川から流れて来て、砂浜にたまる。プラスチックゴミは、海の中の生き物の命を脅かしているのかもしれないと、ゴミを分別してゴミを減らそうと思います。





- SDGsの目標と絡め、学ぶ価値づけを行う  
多面的な見方により深く理解し、学ぶ価値づけを行う。
- 相手意識や目的意識の設定による達成感  
「誰に」「何のために」調べ、伝え、学ぶのか、明確にして取り組む。
- 共通理解と共通実践から、指導の質の向上へ  
「SDGsの考えと指導はとても大切」という共通理解から、共通実践となり、指導の質の向上へつなげる。

- SDGsで価値づけ1年目  
SDGsに関連する内容を明確にした上で、自らすすんで学ぶ姿へ。
- 伝え合い、論議したくなる「金沢ふるさと学習」  
児童自身が話し合い解決したいと思うような価値あるテーマへ
- 全ての児童が学び合うSDGsで価値づける  
児童の多様な個性（特別支援教育、不登校傾向）を受け止め、伝える手段の工夫（ICT活用）を生かし誰一人取り残さない学習へ

3学期から全校で行う予定

**未来をつくるSDGsアクションプラン**  
毎日できるSDGsアクション4選

1	2	3	4
SDGsの目標を学ぶ	SDGsの目標を学ぶ	SDGsの目標を学ぶ	SDGsの目標を学ぶ
SDGsの目標を学ぶ	SDGsの目標を学ぶ	SDGsの目標を学ぶ	SDGsの目標を学ぶ
SDGsの目標を学ぶ	SDGsの目標を学ぶ	SDGsの目標を学ぶ	SDGsの目標を学ぶ

環境美化委員会の「花いっぱい運動」より

13 気候変動に具体的な対策を  
15 陸の豊かさを守ろう  
17 すべての人に健康と福祉を



「ESDの視点を取り入れた英語教育～現代社会において英語を学ぶ意義を探る～」  
(石川県) 金沢市立高岡中学校 野坂 雄二 教諭

ESD 英語 コンソーシアム

**SDGs ESD e-ラーニング教材**

2021年度「ESDの視点を取り入れた英語教育」  
～現代社会において英語を学ぶ意義を探る～

金沢市立高岡中学校 (石川県)

教諭 野坂 雄二

なぜ英語を学ぶのか？

先生、なんで英語を学ばなきゃいけないんですか？

国際化社会に英語は必要だ

なぜ英語を学ぶのか？

先生、なんで英語を学ばなきゃいけないんですか？

AIと自動翻訳機能が発達した社会において英語学習に意味はあるのか？

SDGs ESD なぜ英語を学ぶのか？

ESDはSDGsの達成を担う人材育成の方法

ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育。

持続可能な開発に関する価値観  
（人権の尊重、多様な文化の理解、環境の持続、貧困の撲滅）

- 体系的な思考力
- 代替案の思考力（批判力）
- コミュニケーション能力
- リーダーシップ能力

SDGs ESD なぜ英語を学ぶのか？

英語を学ぶことで「持続可能な開発に関する価値観」を養う

家庭環境 価値観 得意・不得意

成長過程 学習意欲 心の状態

SDGs ESD なぜ英語を学ぶのか？

英語を学ぶことで「持続可能な開発に関する価値観」を養う

英語で 隣にいる生徒を理解すること

国際理解

SDGsの達成

- 相手への尊重
- コミュニケーション能力
- 代替案の能力

日々の英語の授業を重ねる中で他者を理解する心が育っていることを実感してほしい！

今回の取り組み

- ・2学期の授業で、対話的な学習を多く取り入れる。
- ・毎回の授業で振り返りを記入させる。
- ・生徒の記述に見られた変化を報告する。

事前アンケート(7月)

「AIが発達する現代に、英語を学ぶ意味はあるか？」

対象：1年生3クラス（92名）

ある：80名 ない/分からない：12名

- 自分で学んで覚えた英語を使って言った方が伝わる。
- 言葉と表情で伝えることは、五感や喜怒哀楽を伝える最も適したものであり、大切である。
- 自分で伝えたり、書いたりすることで誰かみやとか、まごころやとか伝わるのかなと思いました。
- △入試に出るから学ぶだけ
- △将来英語がいるの半分からなくなった。

本日：2021年8月22日(日)

こんな記述があったらいい！

英語の授業を通して

- ・隣の生徒と仲良くなった。
- ・相手の気持ちを考えられるようになった。
- ・クラスの仲が良くなった。
- ・コミュニケーション能力が高まった。

- 2学期からの英語授業改革**
- ①英語座席の廃止  
質疑を頻密に行い、多くの生徒とのコミュニケーションの機会を設ける
  - ②ペア活動の充実  
可能な限り頻密で、他者と関わる活動を行う
  - ③振り返りの視点  
他者との関わり方に視点をあつた振り返り
  - ④英語からの解放  
誰一人取り残さないことへの教育のために

①英語座席の廃止 → 多くの生徒とのコミュニケーションの機会を設ける

1学期までの英語学習の風景

先生	先生	先生	先生	先生	先生
生徒	生徒	生徒	生徒	生徒	生徒
先生	先生	先生	先生	先生	先生
生徒	生徒	生徒	生徒	生徒	生徒

2学期からの風景

先生	先生	先生	先生	先生	先生
先生	先生	先生	先生	先生	先生
先生	先生	先生	先生	先生	先生
先生	先生	先生	先生	先生	先生

- ・アンケートをとってペアを作る。
- ・人間関係に配慮し、話しやすい者同士の同性ペアが多い。
- ・一度作った長期固定される。
- ・ランダム座席を指定する。
- ・1-2週間で変更を行う。
- ・1回の授業の中でも頻密にペアを変えて活動を行う

①英語座席の廃止 → 多くの生徒とのコミュニケーションの機会を設ける

野坂雄二 4月10日

jammy T「西條」ですら、再登壇はjammyです。今日も色々入らんと話しました。英語の授業を通して、たくさんの人とコミュニケーションをとり、たくさん仲良しになっていっている感じがします。

最近先生が色々な人と喋れるようになってるんで英語を皆で共有できるのはいいじゃないかって思います。(´▽`)







・「珠洲市のSDGs学習」 (石川県) 能登SDGsラボ 高 真由美 サブコーディネーター



・「地域の食・文化からつながる海外交流」 (石川県) 国連大学OUIK 小山 明子 研究員



飢餓のゴールにも関わらず



つくる責任 つかう責任  
つくる責任つかう責任の食糧ロスを減らす取組にも非常に深く関わっています



そして多様な生き物が生息している水田環境を守っていくという事



陸の豊かさも守ろうのゴールに積極的に関与しています



海の豊かさも守ろう、に關しては



海から遠く沖島で届けられてきた  
正絹製産品、海女漁文化



2019年 船橋市三月小学校「SDGs三月のごっこプロジェクト」



どきもの内容は「ごっこ」の文字に  
意を込めてSDGsの目標のゲームページでも



企画しており、自らの手で届くのがいい

「地域の食・文化からつながる海外交流！」後半につづく



上野小学校でSDGsの目標「すべての人に健康と福祉を」を



今回のつながりを通して子供たちの交流を  
スタートさせたといういきさつがあります

能登&イフガオ交流

連携して世界農業遺産認定地域の小学生同士の交流をサポート



能登SDGsラボ (能登)



コーディネーター  
高橋美穂さん

国立イフガオ大学 GIAHSセンター



チーフ・コーディネーター  
佐藤 美穂さん (Satoh Mitsu)



コーディネーター  
川口 美穂さん (Kawaguchi Mitsu)



第一回目の交流では自己紹介をしました



日本の子供たちは自分のランドセルを  
見せたり制服を見せてたりして



積極的にごっこをつくる際の課題の解決支援を



イフガオの子供たちは英語版の  
ごっこをつくろうを見てもらって





・「金沢大学附属病院院内学級におけるオンライン天体観望支援活動」 (石川県) 金沢市キゴ山ふれあい  
 研修センター、金沢市小立野小学校金沢大学附属病院院内学級、金沢星の会、北陸ESD推進コンソーシアム

**金沢大学附属病院院内学級における  
オンライン天体観望支援**

金沢市キゴ山ふれあい研修センター  
 金沢市立小立野小学校金沢大学附属病院院内学級  
 金沢星の会  
 北陸ESD推進コンソーシアム

**金沢市キゴ山ふれあい研修センター**

こども交流棟 天文学習棟

金沢駅から10km

**金沢市立小立野小学校金沢大学附属病院院内学級**

- ・長期の入院を必要とし、退院への対応も必要なことから**教室、病棟**が中心で活動することのできない子どもたちが多い。
- ・**野外的な教育活動等が難しく**、野外活動や自然観察、天体観望などが困難である。
- ・金沢市だけでなく全国から入院し、院内学級に在籍している。
- ・中学生が在籍する岩手県中学校金沢大学附属病院院内学級もある。
- ・在校生7名 (男女1:10現在)

**キゴ山ふれあい研修センターでの主催事業**

**金曜日は星見の日 (5~10月)**

市民の方に天体観望の機を提供  
 金沢星の会の会員が協力

**願い**

天体観望を希望する全ての人たちに、その機会を提供したい

**SDGSの理想に合致**

- ・誰ひとり取り残さない
- ・自分事として考える

**オンライン天体観望の可能性①**

キゴ山 天体ドーム  
 オンライン  
 院内学級

コロナ禍で進展したオンラインミーティング

**オンライン天体観望の可能性②**

天体望遠鏡でとらえた星や星団などを  
 デジタルカメラやCMOSカメラで撮影  
 PCモニターに映す  
 ZOOMで共有

DX (デジタルトランスフォーメーション) / イノベーション  
 ⇒天体観望における電子観望の進展

**院内学級でのオンライン天体観望の様子**

教室で視聴 家族で参加

**院内学級でのオンライン天体観望の様子**

クイズに答える  
 質問する

**双方向性**

**オンライン観望の実際①**

金沢星の会会員による実際の月や惑星等の観望

**オンライン観望の実際②**

刀柄 (キゴ山職員) による惑星クイズクイズ等のプレゼン

**オンライン観望の実際③**

ゲスト解説の山川氏 (金沢星の会) の貴重な動画データなどによる流星の話

**試行を含めたオンライン観望の状況**

日時	参加人数	天体観望内容	配信内容	備考
6/24	観望者	天体望遠鏡	ZOOM配信	
9/16	観望者	ライブ配信	ライブ配信	
10/1	観望者2名	天体、月、木星、土星	観望映像	
10/9	観望者3名	天体、木星、アロハ	天体ドームドローン映像 ライブ配信	
10/15	観望者3名	月、火星、土星	月、火星、土星ライブ観望	
10/21	観望者3名	月、木星、土星、金星	データ映像の配信	
10/29	観望者3名	月、金星	あかクイズ、ルーラーの星	
11/12	観望者3名	火星、金星、流星	物の星、流星クイズ	ソフト 山内氏 流星の星
11/20	観望者4名	金星、M42、流星	冬の星、天の川の日	ソフト 山内氏 アンドロメダ星雲

**アンケートから**

「まだ1年生なので、天体のことはよくわからないまま参加しました。(保護者)」

「**入院中に天体観望ができると聞いていなかった**ので貴重な体験ができて良かったです。(保護者)」

「**月を**観望することができて良かったです。(保護者)」

「**子ども**の質問にたくさん答えてもらい、子どもも楽しそうでした。(保護者)」

「私も知らないことを、子どもが知っていたことにびっくりしました。(保護者)」

「はじめまして、**まさか病院で星についての勉強をさせていた**ことができては思わず大変うれしかったです。(保護者)」

**アンケートから**

「**給まふ** (給食) にも天体観望のコーナーがあったらいいなと思っていました。(保護者)」

「**よくハウリング**で音が響いてしまったようなので、**実際に改善**すると嬉しいです。(保護者)」

「**月を**観望することができて良かったです。(保護者)」

「**図賞**が鮮明だと子どもも興味を引くと思います。(保護者)」

「知らなかったことがいろいろ知れて、とても良い勉強になりました。勉強させてあげたいと思いました。(5年)」

「**流れ星**がたくさん見られて良かったです。(1年) (代筆)」

「**星座**の名前の由来が分かって勉強になりました。(保護者)」

**アンケートから**

「今日は見たことなかった**流れ星**を見れたし、**星座**のことも知れてとても楽しかったです。「きよかん」は何か調べたいと思います。5年生なので知っている言葉もあつたけど知らない語をもらえて勉強になりました。(5年)」

「**流れ星**1年以上学校に通っていない娘が、他の友達と一緒に楽しく勉強させていただけ姿を見て、とてもうれしかったです。(保護者)」

「**い**らんなんだいができて良かったです。(2年)」

「**流れ星**のお勉強がとても興味深かったです。(保護者)」

「**1週**早くお月見食を見れたら良かったです。(保護者)」

**アンケートから**

「まだ1年生なので、**プラネタリウム**に行ってみたりして興味を広げたいと思います。(保護者)」

「**来年**は実際にキゴ山での観望会に参加できたらいいと思います。(保護者)」

「**今**まで、天体観望が大好きで、天体観望会に参加してからは、外にも出られず、空の空気が自然に触れたり見たり出来ないで、星を見せあげることができて良かったです。(保護者)」

**☆観望希望☆**

- ・土星のリング
- ・天の川、銀河
- ・キゴ山の紅葉
- ・プラネタリウムの映像
- ・星座の話 (観望者アニメなどで)
- ・私はきよかんので星座の話を聞いてみたい
- ・流れ星をスローで見てみたい
- ・流れ星 流星群
- ・土星の輪を近くで見てみたい
- ・南極で見える星座

**その他の希望**

- ・美術館や博物館などの見学
- ・社会見学

**主体的な学び**

## 成果

○主催事業である「星見の日」に実施することで、無理なく行える。

持続可能

○キゴ山ふれあい研修センターと金沢星の会、院内学級、北陸ESD推進コンソーシアム、金沢大学付属病院の連携で実現できた。

パートナーシップ

○教育においてこのDXの手法を、他の分野、施設に活用できる可能性が高い。

他への広がり

## 課題

△天体ドーム内の電子観望設備やアプリ等の充実が必要



- ・インターネット環境の整備
- ・アプリの補強
- ・PCの更新
- ・ZOOMの安定利用

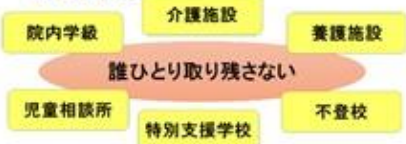
## 今後の展望①

### パートナーシップの拡大

- ・金沢市キゴ山ふれあい研修センター（野外教育施設として施設・設備、プログラムを提供する機能）
- ・金沢星の会（天体及び天体観望の専門性）
- ・北陸ESD推進コンソーシアム（コーディネート、プラットフォーム）

他への広がり

## 今後の展望②



キゴ山ふれあい研修センターから発信

## 今後の展望③



キゴ山ふれあい研修センターから発信

## 今後の展望④

### 天体観望以外の可能性が拡大

- ・社会見学や自然観察など、「学びの場」の提供
- ・企業や専門家集団による技術的支援
- ・アバターになってくれる学生ボランティア

## 実際の声(動画)

- ① 座主先生(院内学級の教師)
- ② 干場氏(金沢星の会)



座主先生



干場氏

・「鳴鹿SDGs～今ほくたちわたしたちにできること」 (福井県) 坂井市立鳴鹿小学校 佐藤 秀幸 教諭



3年次の実践 鳴鹿SDGs 一今、ぼくたちわたしたちにできること～

◎ESDカレンダーをもとにした実践のプランニング

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
内容	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

◎教科・領域を関連付け、多面的・総合的に学習を繰り返し発展させていけるようにする。(教師のプランニング)

↑↑

【児童の思い・声】

今年3年次のスタートにあたって 学級全体の方針

ESD SDGsを通して育てたい力 (スクールプランより)

- ユネスコスクールとして、ESDの視点ですべての教育活動に取り組む。
- ・豊かな感性を育てる。
- ・自ら学習課題や学習課題を選択するなど、興味・関心を生かした自主的自発的な学習に取り組み、課題解決能力を育てる。
- ・「まほろば学習」の中で、SDGsに対して自分にできることに誠実に取り組む態度を養う。

3年次の実践 鳴鹿SDGs 一今、ぼくたちわたしたちにできること～

◎実践を進めるにあたって重視したこと

◎児童一人一人の「学習意欲」「知的探求心・好奇心」「社会や世界との関わり」

学びに向かう力、人間性等が持続可能で自分事として捉えられる

今年3年次のスタートにあたって 学級全体の方針

「まほろば学習」を通して育てたい力

- ESDの視点ですべての教育活動に取り組む。
- 中心は総合的な学習の時間に取り組む「まほろば学習」
- 【まほろば学習で育てたい5つのE】
- ・探求する力 (Explore)
- ・想像する力 (Envision)
- ・表現する力 (Express)
- ・交流する力 (Exchange)
- ・評価する力 (Estimate)

3年次の実践 鳴鹿SDGs 一今、ぼくたちわたしたちにできること～

◎今年度の実践のフローチャート

Phase 1 (10/20～12/15) ESDの学び(11)

Phase 2 (1/10～2/15) 探究(12)

Phase 3 (3/10～4/15) 実践(13)

3年次の実践 鳴鹿SDGs 一今、ぼくたちわたしたちにできること～

◎具体的な実践の内容

Phase 1 (10/20～12/15) ESDの学び(11)

Phase 2 (1/10～2/15) 探究(12)

Phase 3 (3/10～4/15) 実践(13)

3年次の実践 鳴鹿SDGs 一今、ぼくたちわたしたちにできること～

◎具体的な実践の内容

Phase 1 (10/20～12/15) ESDの学び(11)

Phase 2 (1/10～2/15) 探究(12)

Phase 3 (3/10～4/15) 実践(13)





【展開②】自主財源・依存財源と人口の関連性

教科書のグラフを使い、都市部と地方を比べる生徒とのやり取りの中で、引き出す

(身に付けたい「資料を使った知識」)

- 過疎地域ほど依存財源の割合が高い (地方交付税交付金で補填必要)
- 人口が多い都市部では地方税で税金を賄えるが、過疎地域ではそれが困難

→ 地方税の増加 = 勝山に「住んでいる」人を増やす必要 (財政的に「持続可能な発展」)

【展開③】財政状況を踏まえ、これからの勝山市のために一番重要なSDGsを考えよう

個人→グループ

個人別での比較と人図画 02/16/2020

● 勝山市を他県、他都府庁と比較するには、どのターゲットの指標を重視する？

1 6つのなかから3つ選ぶ  
2 一番重要なものを選ぶ  
3 次点の2つを考える

【展開③】財政状況を踏まえ、これからの勝山市のために一番重要なSDGsを考えよう



ある班の話し合いの様子 (参観した先生の記録より)

W: 8,11,15の順番。理由は人口が必要だから。働く場所を設ければいい。15は、勝山に住んでいる人は自然が好きだと思うから。

N: 一番は、理由は市外から人を入れて住んでもいいと思うから。13を選んだのは、冬は雪がたかくなるから、その不安を取り除かないと来てくれない。

S: 次点の2つは11と4にした。住み続けられる環境がないとあかんし、学校がなかったら、東京に進学してそのまま就職してしまう。

N: 俺らの最優先は？ 11は全員入ってる。W: 雪対策は大切、でも4も大切。まあ、勝山じゃなくても大切にしてるけど、S: 15も大事やね、4が強いかなー

W: 雪があるって、交通が不便だから13も、S: 雪んだ理由はどうする？ 自主財源を増やすためだと思うけど、W: 雪降りすぎて、教育を受けられないことがあったから13が大事！ 気候に対応できないと学校もいけない、小学校の休みみたいー

N: ああ、あったねえ。

【展開④】各班のランキング発表 グループ→全体



× 社会科の授業 ~授業後の研究会を踏まえて~

【効果的だった点】

- ・ 政策の意図や善し悪しを分析する視点になる
- ・ 問題が焦点化され、苦手な生徒も議論に参加しやすい
- ・ 既習の知識をターゲットに関連づけやすい
- ・ ターゲット間のつながりから、地域で起きている状況の因果関係に気付いていた

× 社会科の授業 ~授業後の研究会を踏まえて~

【改善点・難しかった点】

- ・ 自由に考えを広げていけるのがSDGsの魅力だが、社会科で教えるべき方向に「誘導」せざるを得ない → 教える&自由に発想させる バランスが難しい
- ・ 総合でのSDGsは「オープンエンド」だが、社会科のSDGsは「クローズドエンド」気味になる → 授業の最終的な着地点が難しい



・ 「味噌蔵SDGs講座」

(石川県) 金沢市味噌蔵町公民館、大学生チーム、㈱ガクトラボ  
北陸ESD推進コンソーシアム

大学生によるe-learning教材作成

味噌蔵町公民館で実施されたSDGs講座を題材に、大学生が参加、インタビュー、撮影、編集を行い、5分と15分の動画を作成した。15分動画の流れは下記のとおり。

・ 導入



・ 大学生たちがESDについて話す



・ ESDの説明



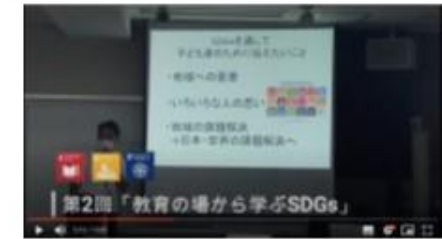
・ 味噌蔵町公民館館長インタビュー



・ 第1回SDGs講座「SDGsってなに？」



・ 第2回SDGs講座「教育から学ぶSDGs」



・先生へのインタビュー



・第3回「里山から学ぶinキゴ山」



・里山オリエンテーリング講師へのインタビュー



・第4回「オンラインで革新的に変わった農業を体験しよう」



・第5回「日本庭園から学ぶ、生物の多様性」



・第6回「みんなで話そう 未来シナリオ」



・参加者インタビュー



・学生たちの話し合い



・問いかけメッセージ



・エンドロール



